



令和 6 年度

社会連携事例集

Kogakkan University



皇學館大学

まえがき

皇學館大学は、明治 15（1882）年に創立されて以来、日本学の学術拠点として専門研究の進展に寄与するとともに、日本人が古くから持ち続けてきた「道義心」や「和」「敬虔」「勤儉」「感謝」を中心とする人間教育を展開し、日本全国に数多くの教員や公務員、企業人、神職を送り出してきました。

現在わが国は少子化や、産業構造の変化、コミュニティの衰退、人間関係の稀薄化、地域間格差の広がりなど、複雑で重層的な問題に直面しています。さらに近年の情報通信技術の加速化や労働市場・就業状況の流動化などが社会の急激な変化にさらに拍車をかけています。この状況は本学の立地する南勢地域をはじめ、三重県全域もその例外ではありません。

この「社会連携事例集」は、皇學館大学の教員が学内外で行っている社会との連携活動、社会への貢献事例の一端を紹介するものです。本学には文学部、教育学部、現代日本社会学部のほか、大学院、教育開発センター、研究開発推進センター（佐川記念神道博物館、神道研究所、史料編纂所）があり、ユニークな研究・教育活動が進められています。

これまで本学は教育・研究から生まれた大学の「知」を活用し、大学のもつ様々な資源を積極的に活用して地域社会への貢献を図ってまいりましたが、これからも伊勢志摩圏域及び三重県における「地（知）の拠点」の大学として、地域の方々、企業、団体、行政、教育機関等諸機関との連携に取り組み、地域社会における新たなネットワークづくりを推進し、地方創生・活性化に貢献してまいりたいと考えています。

令和 6 年 5 月

皇學館大学長 河 野 訓

【お問い合わせ 窓口】

皇學館大学 企画部 地域連携推進室

住 所：〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地

電話番号：0596-22-8635

E-mail：kikaku@kogakkan-u.ac.jp

URL：https://www.kogakkan-u.ac.jp

目 次

文学部

神道学科	3
国文学科	10
国史学科	21
コミュニケーション学科	31

教育学部

教育学科	40
------------	----

現代日本社会学部

現代日本社会学科	65
研究開発推進センター	80
教育開発センター	86
キーワード一覧	90
索引.....	91

文 学 部

神 道 学 科

所 属	文学部 神道学科 教授		
氏 名	板井 正斉		
専 門 分 野	宗教学／宗教社会学		
所 属 学 会	日本宗教学会／「宗教と社会」学会／神道宗教学会		
キーワード	民俗学・神道	地域づくり	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

文化振興活動 地域社会活動	地域文化を活用した地域振興 地域文化を活用した防災対策
------------------	--------------------------------

連携事業等へのアピールポイント

人と人の現代的なつながり方に伝統的な価値観がどのような影響を与えあっているのかについて関心を持っています。特に神社・祭礼などの地域文化資源が、地域課題の解決に果たす役割に注目しています。

主な研究課題と今後の展開

題目：地域神社に関する地理空間（GIS）分析

概要（背景）：本研究では、わが国の人口減少が地域神社に及ぼす社会構造的な影響を GIS による神社周辺人口の増減分析から明らかにすることを目的とする。そのためにまず国税庁が公開している法人番号データ（名称、所在地、法人番号）から「推定宗教法人データ」を作成し[桐村・板井・相 2017]、同データを用いた推定神社・推定寺院の半径 500 m バッファ内の推定人口を 2015（平成 27）年国勢調査の小地域（町丁・字等別単位）人口から面積按分した。その結果、全国の神社半径 500 m バッファ内推定人口 25 人以下の推定神社が 10,418 社（全神社数の 12.9%）、推定寺院が 7,554 寺（全寺院数の 10.1%）存在する可能性を指摘した[板井 2019]。

到達目標と令和 3 年度の取り組みのポイント：神社周辺の人口（推定神社半径 500m バッファ内推定人口）を国土数値情報「500m メッシュ別将来推計人口」（分析範囲は、自治体単位の約 880 倍）の三重県を取り上げて 2015 年と 2050 年から面積按分し、35 年後の人口増減率の分析を試みる。また将来的には人口以外に祭礼の継続状況など動的な変数を用いることで、人口減少をもたらす地域神社への影響をより実証的に明らかにする。

社会活動（学外委員等）

宗教文化教育推進センター運営委員（令和元年 6 月 29 日～現在に至る）

三重県文化財保護審議会委員（令和 4 年 9 月～現在に至る）

神社本庁教学委員（平成 28 年 7 月 1 日～現在に至る）

講演活動実績

地方創生と文化財（令和元年 10 月、志摩文化財調査保護委員協議会）／倭姫宮御鎮座 100 周年について（令和 5 年 6 月、三重県生涯学習センター×皇學館大学連携協定事業講座）

所 属	文学部 神道学科 特命教授		
氏 名	加茂 正典		
専 門 分 野	神道史／神道祭祀／日本文化史		
所 属 学 会	神道史学会／文化史学会／日本書紀研究会／日本歴史学会		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

文化振興活動	神道、日本文化についての調査・研究と教育
--------	----------------------

連携事業等へのアピールポイント

--

主な研究課題と今後の展開

前近代の神道史。朝廷祭祀と神宮祭祀の歴史的研究。

--

社会活動（学外委員等）

神道史学会委員（平成 24 年～）
神社本庁参与（平成 28 年～）
神社本庁教学委員（平成 29 年～）

--

講演活動実績

神社本庁総合研究所主催中堅神職研修 平成 31 年 2 月 8 日 神宮道場
大嘗祭の神饌 猿田彦神社研修会 令和元年 5 月 22 日 猿田彦神社
大嘗祭の意義 全国清々会講演 令和元年 6 月 6 日 八坂神社
踐祚式（剣璽渡御儀礼） 國學院大學文化講演会 日本古代の皇位継承 令和元年 6 月 8 日 國學院大學
即位式と大嘗祭 熱田神宮文化講座講演 令和元年 9 月 7 日 熱田神宮
古代の大嘗祭 京都アスニー講座 令和元年 9 月 20 日 京都市生涯学習総合センター
大嘗祭の意義 伊勢神宮崇敬会講演 令和元年 10 月 27 日 神宮会館

--

所 属	文学部 神道学科 教授		
氏 名	中山 郁		
専 門 分 野	宗教学（山岳宗教、修験道・戦争慰霊・日本近代宗教史）／高等教育		
所 属 学 会	日本宗教学会・日本山岳修験学会・軍事史学会・神道宗教学会・大学教育学会		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

山岳にかかわる 宗教・文化	市民ハイキングや野外学習活動
戦争と慰霊に 関する教育	市民講座や野外学習会等

連携事業等へのアピールポイント

おもに近代における地域社会の歴史を知るための講座や野外での見学会を行う場合はお役に立てるかと思います。大学では課外授業として学生を引率し朝熊岳を修験道の修行方式で登る体験修行を行い好評を得ています。

主な研究課題と今後の展開

日本の山岳宗教、とくに修験道やシャーマニズムの研究をおこなうとともに、海外における戦争慰霊（遺骨収集・慰霊巡拝等）のフィールドワークを進めています。今後は前者においては「修行」の検討を、後者においてはこれまでの研究を著作として発表することを目指しています。

社会活動（学外委員等）

講演活動実績

令和2年11月18日 愛知学院大学文学部FD研究会講師

所 属	文学部 神道学科 特別教授		
氏 名	橋本 雅之		
専 門 分 野	国文学／国語学／神話学		
所 属 学 会	萬葉学会／上代文学会／古事記学会／鈴屋学会		
キーワード	歴史・文化	文学・言語学	民俗学・神道

連携分野（地域社会活動・産官学連携・文化振興活動等の具体的な内容）	
地域文化	国文学を通してみた観光産業の資源開拓
臨床心理学	神話・昔話を通してみた日本文化と日本人のメンタリティの見直し

連携事業等へのアピールポイント
講演会活動を中心として、今後も連携事業への積極的な取り組みを果たしていきたいと考えている。

主な研究課題と今後の展開
1、古代文学、とくに風土記の研究と水戸学の関連を通して近世後期の思想史と地誌研究の関連を究明する。 2、神話・昔話を通してみた日本文化の深層心理の究明する。

社会活動（学外委員等）
特になし

講演活動実績
「神武天皇即位の道」（宮崎県立図書館 平成 31 年 1 月 13 日）／「風土記にみる日本文化」（近鉄文化サロン 平成 31 年 4 月 20 日）／「風土記が語る古代」（宮崎県、神話のふるさと県民大学 令和元年 10 月 5 日）／「風土記の神、人、里」（近鉄文化サロン 令和元年 12 月 21 日）／「出雲風土記の神話と伝説」（オンライン講演、主催 島根県古代文化センター 令和 2 年 11 月 22 日）／「古代摂津国の伝説と風土記」（近鉄文化サロン 令和 4 年 7 月 2 日）／「古代摂津の国と上代文学」（近鉄文化サロン 令和 5 年 1 月 21 日）／「ミワという言葉と酒をめぐる伝説」（三輪山セミナー 令和 5 年 3 月 18 日）／「神話の空間と神社の空間」（四日市熟年大学 令和 5 年 5 月 19 日）／「『菅笠日記』紀行（宣長十講 令和 5 年 5 月 20 日）

所 属	文学部 神道学科 教授		
氏 名	松本 丘		
専 門 分 野	神道史／神道思想史		
所 属 学 会	皇學館大学人文学会／神道史学会／神道宗教学会／日本宗教学会／明治聖徳記念学会／日本思想史学会／鈴屋学会		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

神道・伝統文化	伊勢神宮を中心とする神道文化・伝統文化の研究
---------	------------------------

連携事業等へのアピールポイント

日本人の心のよりどころである伊勢の神宮。この地で育まれた歴史と文化を広く発信できたらと思います。

主な研究課題と今後の展開

江戸時代の神道史・神道思想史の研究。垂加神道・山崎闇斎学派の展開を明らかにしたい。

社会活動（学外委員等）

特になし

講演活動実績

谷川士清と垂加神道／近世の式年遷宮／大和の古社／古代の宮廷祭祀・儀礼／即位礼と大嘗祭／中世～近世の宮中祭祀・儀礼／近代の宮中祭祀・儀礼／本居宣長と日本書紀／古事記／旧事紀・古語拾遺／太安万侶／吉田兼俱／山崎闇斎／戦う神主たち／会津の藩風と神道／式年遷宮とその意味／江戸時代の伊雑宮信仰／皇室の基礎知識

所 属	文学部 神道学科 助教		
氏 名	高野 裕基		
専 門 分 野	近代神道史		
所 属 学 会	神道史学会／神道宗教学会／明治聖徳記念学会		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	道德教育

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

神道史	近代の神社・神道に関する研究と教育
神道・伝統文化	神道や日本文化に関する知識の普及活動

連携事業等へのアピールポイント

近代神道史を専門としています。特に神社・神道に関わる人々による教育勅語の解釈に関心をもっており、近代の神道学者らによる教育勅語の解釈論（国民道德論）について研究しています。

今後は、歴史的展開のみならず、教育勅語に示された精神や徳目の現代的意義についても検討したいと考えています。

上記以外にも、伊勢の神宮を中心とした神道文化を広く発信することで、地域社会に貢献できるよう努めてまいります。

主な研究課題と今後の展開

題目：近代の宗教系教育機関の研究

近代の宗教界では、人材育成のため多くの教育機関が創設されました。神道界の代表的な教育機関は、伊勢の神宮皇學館と東京の皇典講究所・國學院です。本研究では、これらの教育機関の活動を比較検討し、それぞれの特徴を明らかにすることを目的としています。同時に、神宮皇學館における研究教育活動の特徴を検討することで、延いては、伊勢の地ならではの神道研究について明らかにするとともに、その成果を地域社会へ発信したいと考えています。

社会活動（学外委員等）

特記事項なし

講演活動実績

「御代替にむけて」（神奈川県女子神職会主催教養研修会、平成31年4月15日）／「祓と神社」（神道青年会創立七十周年記念事業「茨城県・千葉県合同研修会」、令和元年7月29日）／「神社と保育」（全国神社保育団体連合会 令和元年度 関東地区夏期研修会、令和元年7月29日）／「踐祚大嘗祭の基礎知識」（神道青年全国協議会夏期セミナー、令和元年8月27日）／「近代の神社神道と大嘗祭」（千葉県神道青年会御大典奉祝事業教養研修会、令和元年9月30日）

文 学 部

国 文 学 科

所 属	文学部 国文学科 教授		
氏 名	大島 信生		
専 門 分 野	上代国語国文学		
所 属 学 会	萬葉学会／美夫君志会／古事記学会／上代文学会／日本語学会／鈴屋学会／解釈学会／国際熊野学会／生き物文化誌学会		
キーワード	文学・言語学		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

歴史・文化	上代文学に関わる歴史・文化の研究
-------	------------------

連携事業等へのアピールポイント

上代文学作品（万葉集・古事記・日本書紀・風土記）は、日本の様々な土地が舞台となっています。実際に文学作品の故地をめぐるなど、現地に赴くことで、文学作品の理解が深まると考えます。三重県においても様々な文学作品の故地があり、作品の魅力を発信できればと考えます。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

万葉集の訓詁注釈的研究

万葉集の歌を丁寧に読み解くことで、作品の理解を深めていきます。

古事記・日本書紀の研究

古事記・日本書紀をどのように訓読・解釈していくかということを通じて、作品の理解を深めていきます。

社会活動（学外委員等）

萬葉学会編輯委員（平成 17 年～）／美夫君志会常任理事（平成 22 年～）／古事記学会理事（平成 14 年～）／上代文学会理事（平成 21 年～）／万葉文化振興会理事（令和 3 年～）

講演活動実績

万葉集と名張（令和元年）／新元号「令和」と万葉集（令和元年）／即位礼と大嘗祭（令和 2 年）／古事記を読む一大国主神の話（前）（後）―（令和 2 年・4 年）／『日本書紀』を読む一仁徳天皇（1）（2）―（令和 3 年）／万葉集と令和、名張―（令和 4 年）―／『日本書紀』を読む一允恭天皇（1）（2）・安康天皇―（令和 4 年）―／古事記を読む一葦原中国のことむけ―（令和 4 年）／『日本書紀』を読む一雄略天皇（1）―（令和 5 年）

所 属	文学部 国文学科 教授		
氏 名	上小倉 一志		
専 門 分 野	書道		
所 属 学 会	書学書道史学会／美術文化史研究会／読売書法会／謙慎書道会／中部日本書道会		
キーワード	芸術・スポーツ		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

『岡寺版集帖』の調査・研究	松阪市岡寺山継松寺蔵の韓天寿『岡寺版集帖』版木に関する調査
---------------	-------------------------------

連携事業等へのアピールポイント

主な研究課題と今後の展開

- ・魏「范式残碑」に関する研究
魏の范式残碑の筆法を生かした作品を制作し、日展・読売書法展にて発表
- ・隸書から楷書への過渡期の文字変遷とその表現法に関する研究
過渡期の文字を研究することによって、楷書の成立・完成に至る過程を探る。
- ・韓天寿『岡寺版集帖』に関する調査・研究
『岡寺版集帖』版木の調査・研究

社会活動（学外委員等）

日展会友／謙慎書道会会員（常任理事）／社団法人中部日本書道会会員（理事・1 科審査会員・第2 企画部長）／中日書道展 1 科審査員／読売書法会会員（理事）／書学書道史学会会員／社団法人全日本書道連盟正会員／美術文化史研究会会員／

講演活動実績

所 属	文学部 国文学科 教授		
氏 名	齋藤 平		
専 門 分 野	日本語学／社会言語学		
所 属 学 会	日本語学会／社会言語科学会／萬葉学会／日本NIE学会／鈴屋学会／解釈学会		
キーワード	文学・言語学	地域づくり	防災・減災

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

文化振興活動	ことばを活用した地域づくり
地域社会活動	ことばを活用した防災・減災対策

連携事業等へのアピールポイント

地（知）の拠点整備事業（COC事業）の事業推進責任者として地域課題の解決に取り組んできました。
ことばの調査を通じて学生が言語研究の方法を学ぶとともに、地域の文化的資源の活用についても広く
関心を持ち、地域社会に貢献できるよう取り組みを進めています。
高知県中部西部の地震津波記念碑の伝承内容と方法について（皇學館大学紀要第60輯、令和4年3月）
「東紀州のくらしとことば ——御浜町の巡回講座から——」（おくまの8号、平成30年3月）
「東北の津波記念碑」（『東日本大震災神社・祭り 本編』（神社新報社、平成28年7月）
「津波記念碑の伝承」（皇學館大学文学部紀要第46輯、平成20年3月）

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

① 津波記念碑の社会言語学的研究

平成12年度より、三陸沿岸の昭和8年三陸地震津波記念碑の調査を行い、また、設置事情の伝承についての地域の人々の認識が忘却されつつあるという状況を明らかにしてきました。その後、高知県、徳島県でも調査を進め、昭和南海地震津波の教訓を伝承していることがわかってきました。ハード面での取り組みのみでは教訓が十全に生かされず、いかにしてことばを使ったソフト面での伝承を実現するかが重要だということを明らかにしています。今後は、東日本大震災の伝承がどのように実現されていくのかに関心をもって研究を進めていきます。

② 三重県方言の研究

三重県方言を語彙面から考察し、その成果を一般の方々に紹介するために月刊「しんぷる」に10年以上にわたり、連載を続けています。

社会活動（学外委員等）

伊勢市総合計画審議会会長（令和3年6月20日～現在に至る）／伊勢市まち・ひと・しごと創生会議会長（平成28年6月28日～現在に至る）／伊勢市花・木・鳥選考委員会委員長（令和3年6月14日～令和3年12月31日）／伊勢志摩定住自立圏ビジョン懇談会会長（平成29年4月1日～現在に至る）／志摩市総合計画審議会会長（令和2年1月30日～令和3年3月31日）／志摩市地方創生審議会会長（令和3年12月21日～現在に至る）／伊勢市公平委員会委員長（令和元年12月26日～現在に至る）／名張市史編集専門部会民俗部会委員（平成14年9月～現在に至る）／鈴屋学会常任委員（平成16年4月～現在に至る）／三重県NIE推進協議会会長（令和3年8月28日～現在に至る）

講演活動実績

しゃべって残そに！めいわの方言（令和4年12月、明和町行政チャンネル）／「とごる」の解説（令和4年3月、名古屋テレビ放送（ドデスカ！））／「蘇民将来子孫家門」の解説（令和4年11月、NHK津放送局「まるっとみえ」）／ことばと思い出の場面（令和5年2月、茶道裏千家淡交会・三重県南学校茶道連絡協議会）／伊勢の言葉談義（令和5年5月・五十鈴塾）／鳥羽方言かるた製作助言（令和5年8月、鳥羽方言かるたの会）／山田のことば雑考（令和5年10月、厚生地区まちづくりの会文化講演会）／神社巡りツアー・堅田神社・江神社・神前神社ガイド（令和5年11月、ふたみまちづくりの会）／三重県方言の解説（令和6年1月、岐阜放送「ラジオ岐阜弁まるけ」）

所 属	文学部 国文学科 教授		
氏 名	田中 康二		
専 門 分 野	日本近世文学／国学／和歌文学		
所 属 学 会	日本近世文学会／鈴屋学会／和歌文学会		
キーワード	文学・言語学	歴史・文化	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

文化振興活動	国学を中核とする伊勢・松阪の文化振興
--------	--------------------

連携事業等へのアピールポイント

日本近世文学、とりわけ和歌文学を中心とする雅文学・国学を研究しています。近年は伊勢国松坂の国学者本居宣長の研究（宣長論三部作・宣長伝三部作）として一区切りつけたところです。今後は国学に先行する古代中世の歌学と、国学が近代の学問に分岐し、現代の国語教育にまで流れ着く過程について、日本古典学という観点から研究する予定です。

主な研究課題と今後の展開

- ・ 題目 昭和十年代における「国学的なるもの」の興隆と衰亡
- ・ 概要と到達目標 昭和六年の満洲事変から昭和二十年の敗戦に至る過程で、それは「日本精神論」という形式で盛んに議論の俎上に載せられた。そこには、「日本」とは何かを問う問題提起が集積されている。それは神代の「国生み神話」、古代の「大和魂」論、中世の「神風」史観、近世の「国学」論、幕末の「勤皇歌」論など、時代を縦断的に貫く問題系であった。そのような問いがわずか十年の間に噴出し、出口の無い迷宮をさまようように日本中に渦巻き、大きくなっていったが、敗戦とともに突如として消滅した。本研究では、昭和十年代に盛んに議論された「国学的なるもの」について、当時の言説を残らず収集し、これを丹念に読み解くことによって、失敗学説（蹉跌）から何を学ぶことができるか、について、文学・思想・歴史というジャンル横断的な観点から追究することを目的とする。

社会活動（学外委員等）

鈴屋学会常任委員（平成 10 年 4 月～現在に至る）

講演活動実績

平成 31 年 4 月 19 日「もののあはれこそ日本人の心性（国際高等研究所）」／令和元年 5 月 17 日「近代国学の青写真－本居豊穎「建白書」を読む（キャンパスプラザ京都）」／令和元年 6 月 15 日「本居宣長と古事記－『古事記伝』（近鉄文化サロン阿倍野）」／令和元年 9 月 7 日「本居春庭の受難と父宣長（大治町講演会）」／令和 3 年 11 月 27 日「三重県文語シンポジウム－古典の魅力再発見－（三重県総合文化センター多目的ホール）」／令和 4 年 10 月 7 日「本居宣長に学ぶ日本の「心」－「もののあはれを知る」説とは何か－（五十鈴塾右王舎）」

所 属	文学部 国文学科 教授		
氏 名	松下 道信		
専 門 分 野	漢文学・中国宗教思想（道教）		
所 属 学 会	中国社会文化学会／東方学会／日本宗教学会／日本中国学会／日本道教学会		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

文化環境	宗教文化・異文化理解
------	------------

連携事業等へのアピールポイント

道教は儒教、仏教と並ぶ、中国三教の一つとされ、大きな影響を持っており、日本では体系的に受容されることはなかったものの、思想的・文化的影響も少なくありません。こうしたことから、道教に対する理解を通じて、日本や東アジアにおけるより深い理解を提供できればと考えています。

主な研究課題と今後の展開

中国の道教思想を対象に宗教文化を研究しています。また最近ではその神道への影響についても関心を持っています。

社会活動（学外委員等）

日本道教学会（評議員）（平成 22 年 1 月～平成 25 年 12 月）
日本道教学会（理事）（平成 26 年 1 月～現在に至る）

講演活動実績

第 113 回指導神職研修：「神道における中国道教の影響について」（令和 5 年 4 月 4 日）
藝文学シンポジウム：「頓悟と金丹：禅宗・全真教・内丹道の目指すところ」（令和 5 年 11 月 26 日）

所 属	文学部 国文学科 准教授		
氏 名	岡野 裕行		
専 門 分 野	図書館情報学／日本近現代文学		
所 属 学 会	昭和文学会／情報メディア学会／中部図書館情報学会／日本近代文学会／日本図書館協会／日本図書館研究会／日本図書館情報学会		
キーワード	社会教育・生涯学習	文学・言語学	地域づくり

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

社会教育・生涯学習	文学散歩／ウィキペディアタウン／学生協働
文学・言語学	ビブリオバトル／文学館
地域づくり	伊勢河崎一箱古本市／ブックピクニック

連携事業等へのアピールポイント

「文学館」「文学アーカイブ」「文学散歩」「読書環境の整備」など、図書館と文学の領域が重なり合う学際領域に関心を持っています。その成果として、アプリ「伊勢ぶらり」の制作、「伊勢河崎一箱古本市」「ブックピクニック」の開催、「ウィキペディアタウン伊勢」の実施のほか、ビブリオバトルの普及活動や講演会にも関わってきました。そのほか、三重県教育委員会と連携して三重県内で「高校生ビブリオバトル」を開催したり、活字文化推進会議主催による「全国大学ビブリオバトル」「全国高等学校ビブリオバトル」の開催・司会、「Library of the Year」選考委員（令和3年より選考委員長）、「全国学生協働サミット」の開催・運営委員などにも関わってきました。さまざまな文学資料に蓄積されてきた知識を、いかにして社会へと歓迎していくかの可能性や具体的な方法について関心を持っています。

主な研究課題と今後の展開

- 題目：文学散歩の研究
- 概要：文学散歩は昭和25年末に野田宇太郎が考案して以降、全国各地に広がっている。図書館や学校教育のなかでの文学散歩の取り組みについて、歴史的経緯をたどりながらその意義について研究を進めている。
- 到達目標と次年度の取り組みのポイント：これまでの文学散歩の取り組みについて、全国的な実施事例を確認することで、その歴史や実態を探ってみたい。

社会活動（学外委員等）

日本図書館協会代議員（令和5年2月～現在）／亀山市立図書館協議会委員長（令和4年10月～現在）／愛知県子供読書活動推進協議会委員（令和4年5月～現在）／NPO法人知的資源イニシアティブ（IRI）Library of the Year 担当理事（令和元年7月～現在）／桑名市立図書館協議会委員長（平成31年4月～現在）／名張市図書館協議会委員（平成30年5月～現在）／三重県立図書館協議会委員（平成29年4月～現在）／伊勢市子ども読書活動推進会議委員長（平成29年4月～現在）／伊勢市立図書館協議会委員長（平成29年4月～現在）／一般社団法人ビブリオバトル協会副代表理事（平成28年12月～現在）／図書館総合展運営委員会運営協力委員（平成25年10月～現在）

講演活動実績

図書館は現実を変える場／私たちは現実に変える形（令和6年1月）／探していた本に出会う方法（令和5年12月）／ビブリオバトルを楽しもう（令和5年9月）／図書館をはじめる（令和5年4月）／学校教育・学校図書館でビブリオバトルを楽しむ（令和4年6月）／読書を語る言葉（令和4年6月）／本を読むこと（令和4年4月）／本を読む人の姿は美しい（令和3年2月）／文学作品があなたのもとに届くには（令和2年10月）／『パブリック 図書館の奇跡』公開記念：日本各地の《公共》のエキスパートと考える！《公共性を持つ空間》のあり方と未来（令和2年7月）／「ビブリオバトルを通して読書について考える」（令和元年12月）

所 属	文学部 国文学科 准教授		
氏 名	木村 尚志		
専 門 分 野	中世文学／和歌文学		
所 属 学 会	和歌文学会／中世文学会／日本文学協会／全国大学国語国文学会		
キーワード	文学・言語学	歴史・文化	民俗学・神道

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

地域観光	地域の観光に古来の歌枕を活用する。歌碑や解説の作成に当たる。
日本中世史	鎌倉期の歴史において、文学が政治・経済・社会といかに結びついていたかを、日本中世史の知見を活かしつつ論じる。
仏教学	院政期から鎌倉期にかけて密教との結びつきを強めていった和歌の「歌道」としての展開を、仏教学の知見を活かしつつ論じる。

連携事業等へのアピールポイント

私の専門とする中世和歌において、和歌と仏教がタイアップして「歌道」が作り上げられてゆく中で、伊勢は「聖地」として成長していきました。和歌は「祈り」の言葉です。そして中世和歌はその「祈り」を宗教上の信仰と不可分のレベルにまで高めました。晩年に伊勢に移住した西行は、熊野詣での途上で、何事もおとろえゆく世の中であって、この歌の道だけは、昔と変わらぬ人々の思いを仏教と同じく「祈り」の言葉として受け継ぐ価値がある文化だという趣旨の夢告を得て（新古今集・詞書）、その意志は後進の仏教者かつ歌人である慈円にも受け継がれました。そのような「祈り」の言葉としての和歌の魅力を伝えていきます。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

- ・ 題目 中世和歌と政治―鎌倉期の平和と和歌―
- ・ 概要 各時代の文化事業は政治的な目的に沿って支援・補助を受ける中で発展してゆくのが常です。中世和歌は、京鎌倉の公武協調体制の道を政治的に担っていた九条家に仕えていた俊成・定家親子によって、すべての人間は本質的に平等であるという天台本覚思想に基づくルネサンスとして始まりました。そのような政治と中世和歌の切っても切れない関係を引き続き研究していきます。
- ・ 到達目標と取り組みのポイント
政治思想における仏教の影響が、和歌などのメディアを通してもたらされてゆく仕組みを明らかにします。「もののふ」及び東国の歌枕を詠んだ中世の歌を取り上げて、それぞれ論文として発表します。
- ・ 課題として取り上げた背景、メッセージ
大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」で鎌倉中期への関心が高まっているこの時期だからこそ、束の間の中世の「平和」が何によってもたらされたかを知り、これからの日本の進む道を考える材料にしていきたいと思います。

社会活動（学外委員等）

- ・ 2023年4月より全国大学国語国文学会の委員として活動します。

講演活動実績

平成31年10月20日 市川能楽連盟での講演。世阿弥伝書の「花」の概念についての講演と独吟。／令和2年2月7日・21日 松戸市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課での講演。『百人一首』についての講演。／令和4年7月23日 市進学院「和洋文学講座」での講演。「京と鎌倉を繋ぐ中世の歌人たち」という論題での講演。

所 属	文学部 国文学科 特命准教授		
氏 名	千 邑 淳子		
専 門 分 野	図書館学		
所 属 学 会	日本図書館情報学会／中部図書館情報学会		
キーワード	社会教育・生涯学習	地域づくり	福祉・高齢者・人口減少

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

社会教育・生涯教育	公共図書館及び地域コミュニティにおけるワークショップ
地域づくり	コンテンツを介在させたコミュニティづくり

連携事業等へのアピールポイント

古典文学などのコンテンツを利用した音読のワークショップ講座などを行い、本を読むことの楽しさ、効用を伝えている。公共図書館の館長として、図書館を取り巻くスチークホルダーとともに、地域住民の集う場づくりを実践している。その自治体さらに近隣の高齢者向けに古典大学・地域資料の音読やビブリオバトルを通し、本を読む楽しさ、仲間づくり、また免疫力をあげ、健康長寿を目指すワークショップを開催している。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

題目：公共図書館における地域との連携と地域活性化

概要：地域に縁ある文学作品や地域資料などの利活用による地域住民の意識の傾向を探る。

社会活動（学外委員等）

平成 30 年度～現在 あま市美和図書館館長／本を介在させてコミュニケーションの場作りをする Book Conc 代表／令和 2 年 4 月～現在 名張市社会教育委員／平成 31 年度～現在 中部図書館情報学会理事

講演活動実績

令和元年～現在 「読書で交流～本を読む・伝える楽しさ～」 あま市シルバーカレッジ講座 講師
 令和 2 年 9 月～現在 「脳トレ！筋トレ！素敵な笑顔で免疫力アップ」 くわな市民大学講座 講師
 令和 2 年 12 月「脳トレで免疫力アップ！」 あま市シルバーカレッジマスター講座 講師
 令和 3 年 10 月「音読講座」 松阪公民館「寿大学」講師

所 属	文学部 国文学科 助教		
氏 名	平石 岳		
専 門 分 野	日本近代文学		
所 属 学 会	日本近代文学会／日本文学協会／韓国日語日文学会		
キーワード	文学・言語学	芸術・スポーツ	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

文学・言語学	明治文学を中心にしたメディア学的見地
芸術・スポーツ	文学作品のメディアミックス（演劇化、映画化…など）と受容者の関係性について

連携事業等へのアピールポイント

私の研究は、テキスト（書かれたもの）を中心に行っておりますが、たとえばひとつの文学作品が、他の多種多様な表現媒体でつくりかえられ、人々に広まっていく過程にも興味を持っています。演劇、映画、絵本、アニメ、テレビドラマ、教科書…。ひとつの作品に、様々な人々が関わり、新たな命を吹き込むこと。その過程は、「読む」だけではない文学の楽しみ方のひとつだと思います。その過程などに携われたら幸いです。

主な研究課題と今後の展開

徳富蘆花の文学を中心としたメディアミックスの研究。
引き続き、近代日本の「文学」が、出版システムや他の表現媒体と関わりながら、どのように広まったのかを調査していきたいです。演劇関係では、「中央」の機関（早稲田大学演劇博物館、国立劇場、松竹大谷図書館…）だけでなく、関西や三重、地方の資料も探索していき、その地域、その時代独自の演劇事情なども多面的に検討していきたいです。また、国語読本・教科書で「文学」が、どのように教育のための材料になっていくのか、についても興味があります。

社会活動（学外委員等）

特定非営利活動法人蘆花会 理事（令和5年8月～現在に至る）

講演活動実績

平成31年1月「ソウル神学大学短期留学プログラム講演会」／令和元年9月「没後92年・蘆花忌」／令和4年11月「徳富蘆花サミット ～もっと知ろう 徳富蘆花～」

所 属	文学部 国文学科 助教		
氏 名	吉井 祥		
専 門 分 野	中古文学／和歌文学		
所 属 学 会	和歌文学会／中古文学会／上代文学会／日本文学協会／全国大学国語国文学会／美夫君志会		
キーワード	文学・言語学		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）	
文化振興活動	中古文学（平安文学）、和歌文学に関する知識普及活動

連携事業等へのアピールポイント
<p>昔の人が和歌で何をしていたのかということに、興味があります。和歌に限らず、平安文学に関する知識普及活動等、古典を身近に感じるための活動や、現代社会と古典文学を繋ぐ活動をしていきたいと考えています。</p>

主な研究課題と今後の展開
<p>1、和歌の機能 平安和歌が当時の社会の中でどのような働きをしていたのかを研究しています。最近では特に和歌によるコミュニケーションを課題としており、令和3年度からは宴や会合といった人々の集う場での詠み合いに着目しています。和歌を詠んで何をしていたのかを明らかにすることで、和歌とは何か考えていきたいと思っています。</p> <p>2、伊勢と中古文学 ゼミで「斎宮貝合」を取り上げ、学生たちと輪読を進めています。今年度からは本学所蔵の八代集の翻刻も始める予定です。</p>

社会活動（学外委員等）
<p>全国大学国語国文学会編集委員（令和5年7月～現在に至る）</p>

講演活動実績
<p>斎宮歴史博物館 古典文学講座「斎王と和歌」（令和3年度）</p>

文 学 部

国 史 学 科

所 属	文学部 国史学科 教授		
氏 名	遠藤 慶太		
専 門 分 野	日本古代史		
所 属 学 会	続日本紀研究会、日本古文書学会、木簡学会		
キーワード	歴史・文化		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）	
日本古代史	日本古代史、地域文化

連携事業等へのアピールポイント
<p>史料にもとづいた日本の古代史について研究をしています。とくに編纂史料である歴史書や一次史料である木簡・写経といった、現代に伝えられた文献・文字資料の成り立ちを掘り下げ、史料ごとの性格をつかむことを重視しています。これまで大阪府下の自治体史事業に参加し、史料の収集や講演を行ってきました。身近な地域の成り立ちを歴史の視点でとらえなおし、私自身が学ばせていただく機会が多くありました。</p>

主な研究課題と今後の展開
<p>倭王権の中心基盤であった畿内や周縁にあたる伊勢・美濃の地域史を比較しながら、広がりをもつ古代の東国について検討を行う。そのために東海地方の古代遺跡や伝承地の見学調査を行いながら、文献史学の立場に徹して、地域的特質の考察を深めたい。</p> <p>ヤマトタケルの記事に登場する伝承地を見学し、古代の交通と地域編成について考察をする。「アヅマ」の地名起源に登場する東海道足柄坂、東山道碓氷坂を中心に、東国の領域や境界を踏査し、地域性の感覚を養うことにつとめたい。</p>

社会活動（学外委員等）
日本古文書学会（編集委員、平成 21 年 6 月～継続中）

講演活動実績
<p>「光明皇后と施薬院」（奈良県看護学教育協議会研修会、オンライン講演、令和 5 年 4 月 24 日）／ Web 番組『WEEKLY YOCHIAI』時空ミステリー奈良編（【落合陽一】謎多き「日本書紀」の真相、https://www.youtube.com/watch?v=euph4sM-kbw 部分公開、令和 5 年 8 月 16 日）／「伊賀の古墳と交通路 美旗古墳群を考える」（なばりカレッジ 皇學館大学ふるさと講座、令和 5 年 9 月 10 日）／「倭姫命の巡幸と伊賀・伊勢」（三重県神道青年会・神宮神道青年会合同研修会、令和 5 年 11 月 10 日）／「フミヒト組織の成立」（かわさき市民アカデミー、オンライン講座、令和 5 年 12 月 1 日）</p>

所 属	文学部 国史学科 教授		
氏 名	岡野 友彦		
専 門 分 野	日本中世史		
所 属 学 会	日本古文書学会／国史学会／史学会／神道史学会／日本史研究会／歴史学研究会／中世史研究会／日本宗教文化史学会／鎌倉遺文研究会／戦国史研究会／日本ミュージアム・マネジメント学会		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

日本中世史	平安時代後半から鎌倉・室町・戦国・安土桃山時代の歴史
地域史	伊勢神宮・伊勢国司北畠氏・伊勢平氏などに関する歴史
博物館学	文化財保護・古文書学・地域博物館の社会的役割など

連携事業等へのアピールポイント

日本中世史を専攻し、三重県の中世史に興味を持っている関係から、中世の伊勢神宮や伊勢国司北畠氏、あるいは伊勢平氏について、地域からの講演依頼にお応えしてきた。また前職が博物館学芸員であった経験から、地域の博物館や文化財保護に関係する仕事でも社会貢献している。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

- ・中世の伊勢・志摩・伊賀に関する研究
- ・中世伊勢神宮の歴史ならびに伊勢国司北畠氏の歴史について考察する。
- ・具体的には、法律文化社から『伊勢・志摩・伊賀の戦国史（仮）』という単著を刊行する予定である。

社会活動（学外委員等）

- ・三重県文化財保護審議会委員（平成24年9月～現在に至る 令和4年12月～会長）
- ・津市多気北畠氏遺跡調査指導委員会委員（令和元年6月～現在に至る）
- ・伊勢市郷土資料館基本計画策定委員会委員長（令和5年12月～現在に至る）

講演活動実績

伝国詔宣—中世院政下の皇位継承（令和元年6月）／伊勢神道の成立（令和元年7月）／源氏長者—武家政権の系譜（令和元年8月）／佐藤家文書の魅力に迫る！（令和3年11月）／観光誘客と参宮名所図会（令和3年11月）／承久の乱（令和4年3月）／「北畠」から「藤堂」へ—伊勢国の中世から近世へ—（令和4年4月）／伊勢国司北畠氏 VS 伊勢国人長野氏（令和4年6月）／天正伊賀の乱と伊賀惣国一揆（令和4年9月）／かめやま中世文書のみどころ（令和5年1月）／式年遷宮の復興と慶光院上人（令和5年5月）／津市内の伊勢参宮街道—『伊勢参宮名所図会』を題材として（令和5年8月）／熊野古道伊勢路の中世石造物（令和5年10月）

所 属	文学部 国史学科 教授		
氏 名	多田 實道		
専 門 分 野	日本中世史／神宮史／禅宗（曹洞宗）史		
所 属 学 会	日本古文書学会／中世史研究会／神道史學會／日本印度学仏教学会ほか		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）	
歴史・文化	自治体史の編纂／市民向け歴史講座の講師など

連携事業等へのアピールポイント
<p>日本中世史（武士団研究・裁判制度）が専門ではありますが、禅宗（曹洞宗）の歴史に関する研究にも取り組む一方、『伊勢市史』中世編の編纂に携わったことにより、伊勢神宮の歴史についても研究しています。</p>

主な研究課題と今後の展開
<p>「中世神宮史の研究」 ・鎌倉～戦国時代における伊勢神宮の歴史に関して、未だ明らかにされていない分野の実態解明を試みる。</p>

社会活動（学外委員等）
<p>神道史學會委員</p>

講演活動実績
<p>三重テラス（令和5年10月）／近鉄文化サロン／五十鈴塾／ひなち歴史民俗講座（令和3年10月）</p>

所 属	文学部 国史学科 教授		
氏 名	谷口 裕信		
専 門 分 野	日本近代史／地方行政史		
所 属 学 会	史学会／日本史研究会／大阪歴史学会／地方史研究協議会／首都圏形成史研究会		
キーワード	歴史・文化		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

日本近代史	明治・大正・昭和戦前期における地方行政や地域社会の歴史について
近代化遺産	地域に残された近代の政治・行政・軍事などに関係する建造物・史跡等の調査

連携事業等へのアピールポイント

地方行政の制度に関する研究をしています。何となく難しそうで、硬直したイメージでとらえられがちですが、制度を理解するためには、法令の条文以上に、社会の変化をとらえることが大切だと考えています。そのような観点から、『伊勢市史』の編纂事業などを通じて、地域に残る文書に接し、地域社会の様相を歴史的に考察してきました。

最近では、江戸時代まで伊勢神宮への参宮客をもてなしていた御師が、制度的には廃止される近代以降、どのような実態だったのかに関する研究を少しずつ進めています。

主な研究課題と今後の展開

研究課題 1：近代日本における郡の地域的形成と展開について

・概要

近代日本の地方制度としては短命に終わった「郡」が、地域社会で命脈を保ち続けた謎に迫ります。

・今後の展開

戦時体制、戦後改革、高度経済成長を契機とする地域社会の変容とどう関連するのかを追究します。

研究課題 2：御師廃絶後の旧御師の活動について

・概要

旧御師の活動の実態を、旧御師同士あるいは旧御師と旧檀家との間のネットワークに着目して解明します。

・今後の展開

内宮方の旧御師であった岩井田家と、現在の埼玉県域に存在した旧檀家との往復書簡を分析しています。

社会活動（学外委員等）

講演活動実績

松阪公民館寿大学「三重県の誕生と府県のかたち」（令和元年）／修道まちづくり講演会「神苑会の活動と明治の宇治山田」（令和2年）／伊勢郷土会月例講座「御師廃止の背景と影響」（令和4年）／修道まちづくり講演会「近代宇治山田の旅館業と古市」（令和4年）／鶴岡市「国史跡 旧東田川郡役所及び郡会議事堂」未来へつなぐシンポジウム「東田川郡政の歴史的意義～郡役所・郡会の仕組みと役割」（令和5年）／伊勢郷土会月例講座「神苑会の諸事業と宇治山田」（令和5年）

所 属	文学部 国史学科 特命教授		
氏 名	服部 直美		
専 門 分 野	社会科国語科教育学		
所 属 学 会	LD学会		
キーワード	学校教育	社会教育・生涯学習	文学・言語学

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

学校教育 文化振興活動	中学校社会・国語（教員研修、授業指導助言、講演、教科の小中連携）、特別支援教育 等 地域の偉人に関する知識普及活動、話し方・朗読講座
----------------	---

連携事業等へのアピールポイント

- ・小中学校における教科指導（社会科・国語科）や学校・学級経営、教員の資質向上に関して、前職での経験を生かし、お手伝いできればと思います。

主な研究課題と今後の展開

- ・中学校社会科（歴史分野）と国語科（古典作品）を効果的につなげる指導法の研究
- ・地元の歌人「佐佐木信綱」から学ぶ
- ・文章のよさが伝わる朗読のしかた

社会活動（学外委員等）

- ・鈴鹿市教育委員会教育委員（令和6年～）

講演活動実績

皇大倉志会研修「教師をめざす皆さんに伝えたいこと」（令和4年・5年）／ゼミ研修「教員採用試験に向けての心構え」（令和3年）／「教師とは」（令和元年）／小学校研修会（鈴鹿市）「国語科における小中のつながりについて」（令和3年）

所 属	文学部 国史学科 教授		
氏 名	堀内 淳一		
専 門 分 野	東洋史／東アジア古代外交史／東アジアコンテンツ文化史		
所 属 学 会	史学会／魏晉南北朝史学会／六朝学会／歴史学研究会／コンテンツ文化史学会		
キーワード	歴史・文化		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

文化振興活動	古代東アジアの歴史・社会・文化と国際交流現代東アジアにおける歴史認識とコンテンツ
--------	--

連携事業等へのアピールポイント

中国および東アジアにおける国際交流の歴史を研究しています。
中国古代外交史と、中国を対象としたコンテンツを専門としています。（具体例：『三国志』、『キングダム』、倭の五王など）

主な研究課題と今後の展開

- （１）古代における日本・朝鮮・中国を中心とした外交関係：南北朝時代の国境認識について
- （２）日本における魏晉南北朝史の展開：特に北朝史研究の整理と分析
- （３）日本における中国イメージ形成の展開について：中国文化の日本における流入と受容と変容

社会活動（学外委員等）

コンテンツ文化史学会（事務局長：平成 24 年～現在）

講演活動実績

令和元年度 近鉄文化サロン皇學館大学共催講座「三国志とその後の皇帝即位」
令和二年度 学習院大学東洋文化研究所 東文講座「『華化』と『漢化』」

所 属	文学部 国史学科 教授		
氏 名	松浦 光修		
専 門 分 野	日本思想史		
所 属 学 会	神道史学会／日本思想史学会／明治聖徳祈念学会／鈴屋学会／皇學館大学史学会／皇學館大学人文学会		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）	

連携事業等へのアピールポイント
<p>わが国の歴史と伝統の尊さを伝える。</p>

主な研究課題と今後の展開
<p>国学思想史の研究、幕末思想史の研究</p>

社会活動（学外委員等）
<p>神道史学会編集委員</p>

講演活動実績
<p>御代替がりー天皇の祈りと憲法／「靖国の心／御代がわりー皇室とは何か／御代がわりー皇室と国民の絆／皇位継承ー安定化の方策／御代がわりー皇室と国民／天皇陛下の祈りと大嘗祭／平成の御代から令和の御代へー万世一系の祈り／「忠」という思想ー楠公・親房・閻斎・松陰／天皇の祈りー皇室と国民／天皇陛下の祈りと皇位継承について</p>

所 属	文学部 国史学科 准教授		
氏 名	谷戸 佑紀		
専 門 分 野	日本近世史		
所 属 学 会	大阪歴史学会／神道史学会／神道宗教学会／地方史研究協議会／日本歴史学会		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

文化財保護・地域 社会活動	史跡や古文書の調査・保存活動
------------------	----------------

連携事業等へのアピールポイント

江戸時代の宗教について、主に神社やその周辺地域を対象として研究しています。ここで得た知見をもとに、宗教とのよりよい関係を考えるキッカケ・タタキ台を提供できればと思います。さらに、身近な神社・寺院に光を当てることで、地域を深く知る機会を提供することも可能であると考えます。これらは、それぞれの地域の、そして、私たち一人ひとりの固有性（かけがえのなさ）を再認識することにもつながるはずです。講演会や講座などの形で、「地域」とそこに住む「人」が互いに響きあうための“入口”を作ってみてはいかがでしょうか。

主な研究課題と今後の展開

（題目）近世の地方大社の研究―多度大社を事例として―
（概要）近世の地方大社を対象として、①神社の内部構造、②経営のあり方、③地域社会との関係、④布教活動の実態、などについて研究する。
（背景・到達目標）
近世の地方大社は、地域社会において極めて大きな存在でした。藩主や藩士による参拝・祈願、そして、地域住民や他地域の人々による広範な信仰が確認され、神社側からも積極的に働きかけを行っていました。これらの実態を、当時の人々が残した記録・古文書をもとに解明したいと考えています。

社会活動（学外委員等）

NPO法人旧御師丸岡宗大夫邸保存再生会議 主席客員研究員（平成27年4月～現在に至る）
明和町文化財保護審議会委員（平成30年4月～現在に至る）
明和町文化財保存活用地域計画協議会委員（平成30年11月～現在に至る）
伊勢市伊勢うどん調査研究会委員（令和4年4月～現在に至る）
三重県教育委員会熊野参詣道伊勢路調査報告書検討委員会委員（令和5年10月～現在に至る）
伊勢市郷土資料館基本計画策定委員会委員（令和5年12月～現在に至る）

講演活動実績

「江戸時代の「伊勢」と伊勢うどん」（伊勢郷土会、令和5年7月）
「江戸時代の「伊勢」―卸師のまちと本居宣一」（本居宣長記念館、令和5年10月）
「江戸時代の多度信仰と知多半島・伊勢湾」（日本福祉大学知多半島総合研究所、令和5年11月）
「地域連携協働公開講座 古文書・古記録から読み解く郷土の歴史―江戸時代の明和町―」（明和町、令和5年12月）

所 属	文学部 国史学科 准教授		
氏 名	長谷川 怜		
専 門 分 野	日本近現代史		
所 属 学 会	東アジア近代史学会／学習院大学史学会		
キーワード	歴史・文化	産業・観光	学校教育

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

歴史・文化	日本近現代史・近代日中関係史・満洲経営・近代日本の音楽とレコード
文化振興活動	地域に眠る未公開の歴史資料（近代）の調査と公開
文化振興活動	歴史資料を用いた展示の企画

連携事業等へのアピールポイント

個人の自宅や神社、寺院などに未公開のまま残された歴史的資料の調査と整理を行い、研究資源や地域の観光振興のための資源として公開したり、地域の博物館と連携して蓄音機コンサートを実施したりする活動を行っています。いずれの活動も歴史や神道を学ぶ学生たちと共に実施しており、「歴史資料を用いた展示を企画したい」、「地域の歴史を何かの形で発信したい」、「歴史や文化に関するイベントを行いたい」といった要望に対し、学生チームと共に企画から開催まで全般にわたる協力ができます。これまでに、皇學館大学附属図書館、檀原神宮宝物館、松阪市旧長谷川治郎兵衛家、中津川市ひと・まちテラス、奈良県アンテナショップ（まほろば館）、千代田区立日比谷図書文化館特別研究室、奈良県天理市柳本町などで特別展、ミニ展示、ワークショップを行いました。また、研究室では数千枚の戦前の絵葉書、数百点の戦前の観光ガイドなどを所蔵しており、書籍や展覧会、自治体の印刷物などに資料を提供し、活用を図っています。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

「近代日本と満洲」：日本近現代史、特に日本の満洲経営や日中関係史に関する研究を行っています。学生の満洲派遣事業や戦前期の教育現場における満洲の教えられ方などを通して、一般国民が国策としての満洲経営をどう捉えていたのか、を分析しています。現在は、宗教団体による満洲開拓への参画について、思想的背景やそれぞれの団体がいかなる活動を行ったのかを分析しています。また戦後における満蒙開拓団の引き揚げと戦後の生活再建の過程を分析しています。満洲から引き揚げてきた開拓団の中には、三重県内に再入植して生活を再建した団体もあります。三重県という地域の歴史の一部を明らかにするという点でも、重要な研究であると考えます。

「近代日本の音の歴史」：文字に残されたものだけが歴史資料ではなく、視覚資料や音源資料など多様な資料を活用して歴史を分析することが必要です。最近、明治～昭和のSPレコードに記録された音源（音楽・演説・ドラマ・実況など）を再生・デジタル化して、当時の人々が聴いていた「音」がどのような社会的背景によって生み出され、いかなる影響を与えたのかを研究しています。

社会活動（学外委員等）

愛知大学国際問題研究所 客員研究員
愛知大学東亜同文書院大学記念センター 学外研究員
檀原神宮史料調査委員
学習院大学史料館客員研究員

講演活動実績

三重テラス「近代伊勢を旅する」（令和4年）／日比谷図書文化館「コスモポリタン・ハルビン」（令和4年）／刈谷市歴史博物館「アジア太平洋戦争期の刈谷―石川文中の日記を手がかりに―」（令和5年）／旧長谷川治郎兵衛家「旧家で聴く蓄音機の音色～長谷川家のSPレコード」（令和5年）／伊勢国際宗教フォーラム「聖地巡りツーリズム～檀原神宮・伊勢神宮参拝の近代～」(令和5年)／三重県生涯学習センター×皇學館大学連携協定事業講座「倭姫宮御鎮座100周年について」（令和5年）／まほろば館「檀原神宮「文華殿」―織田有楽斎と重要文化財 織田家 柳本陣屋御殿―」（令和5年）

文 学 部

コミュニケーション学科

所 属	文学部 コミュニケーション学科 教授		
氏 名	張 磊		
専 門 分 野	知能工学		
所 属 学 会	日本知能情報ファジィ学会、日本バイオメディカル・ファジィ・システム学会		
キーワード	ICT・メディアリテラシー	国際理解・外国語	学校教育

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

情報スキル向上	社会・時代に求められる情報リテラシを系統的・効率的に養成する教授法
データ分析	ビックデータの分析を通して、様々な社会問題を理解する
日本語学習方法の研究	日本語は母語でない人間に対して、語学力を効率的に身につけられる方法 生成 AI を生かす教育活動

連携事業等へのアピールポイント

- ・情報スキルにおける効率的な向上方法を研究しています。長年の教育経験から効果的な勉強法を助言できます。
- ・母語が日本語でない話者において、日本語の効率的な習得法を教授できます。
- ・データ分析やデータのビジュアライゼーションについて教授できます。

主な研究課題と今後の展開

- ・ディープラーニング (DL) の研究
近年、AI におけるディープラーニングの研究は盛んに行われています。情報インフラの完備と情報端末の普及によるデジタル情報が爆発的に膨らんでいるが、こういう情勢に対応する情報教育は大変遅れています。データサイエンティストの養成を目前目的とし、教育と研究活動に DL を取り入れています。
- ・Python プログラミング言語の研究
前述の DL に深く関わっているプログラミング言語は Python です。授業では、この言語を取り上げているが、Python は成長し続けている言語なので研究していく価値が高いと思います。
- ・WordPress におけるホームページ構築法の研究
ホームページの半数以上はこの WordPress で作られています。張ゼミの Web サイトをこの WordPress で構築中です。

社会活動（学外委員等）

中国社会科学院日本研究所中日経済研究センター特別研究員、平成 17 年～

講演活動実績

「櫻サイエンス・中日青少年科学技術交流」講演、オンライン、令和 4 年 12 月 7 日
「長江流域生物多様性保護活動 ～第 6 回児童環境教育サミット～」、日本中国、令和 2 年 11 月
「長江流域生物多様性保護活動 ～第 5 回児童環境教育サミット～」、中国重慶、令和元年 11 月

所 属	文学部 コミュニケーション学科 教授		
氏 名	豊住 誠		
専 門 分 野	英語教育学		
所 属 学 会	中部地区英語教育学会／全国英語教育学会／外国語教育メディア学会／大学英語教育学会		
キーワード	国際理解・外国語	学校教育	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）	
英語教育	小学校・中学校・高等学校における英語教育全般

連携事業等へのアピールポイント
<p>小学校・中学校・高等学校での英語教育について研究している。大学では、小学校教員免許取得に必要な「英語科教育法」と、中学校・高等学校英語教員免許取得に必要な「英語科教育法」を担当している。研究成果に基づいて、小学校英語教育の実践や中学校との連携、中学校、高等学校の英語授業における効果的なコミュニケーション活動の進め方についての助言をはじめとして、英語に関する資格試験対策、海外留学等の情報提供も可能。また、コミュニティ・スクールの運営に関わってきた経験から、地域社会と学校との連携についての助言も可能。中学校英語検定教科書の著作にも関わっており、教科書を中心とした授業展開のあり方についても助言可能である。</p>

主な研究課題と今後の展開
<p>題目：小学校、中学校、高校での英語教育 概要：①小学校英語教育の実践に関する資料収集およびその指導法の研究、②第2言語習得理論に関する研究、③小学校・中学校・高等学校の教科書等英語教材の研究 取り組みのポイント：中学校新指導要領が令和3年度より全面実施となり、各社より教科用図書が刊行された。それら教科書における「主体的、対話的で深い学び」を目指すための創意工夫や改善ポイントについて考察する。また、教科書を用いて新学習指導要領がめざす「思考力、判断力、表現力」を付けさせるための方策について模索する。</p>

社会活動（学外委員等）
<p>三重県立松阪商業高校学校関係者評価委員（平成23年4月1日～現在に至る）／津市立南が丘小学校評議員（平成15年4月～現在に至る）／津市立南が丘小学校学校運営協議会委員（平成15年4月～現在に至る）／津市立南が丘中学校学校運営協議会委員（平成27年4月～現在に至る）／外国語教育メディア学会中部支部評議員（平成14年4月～現在に至る）／英語資格試験面接委員（昭和63年～現在に至る）／高円宮杯中学生英語スピーチコンテスト三重県大会審査委員長（平成17年～現在に至る）三重県高等学校英語スピーチコンテスト審査委員長（平成23年～現在に至る）／郷土三重を発信！ワンペーパーコンテスト審査委員長（平成26年～現在に至る）／三重県高等学校英語研究会顧問（令和2年4月～現在に至る）</p>

講演活動実績
<p>「深い学び」をめざす小学校英語科教育（津市立南が丘小学校 令和元年5月29日）、「英語教科書からみる英語教育の変遷」（皇學館大学月例文化講座 令和3年12月配信）、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動（津市教育委員会 令和5年2月20日）、地域学校協働活動と公民館（津市教育委員会 令和5年6月27日）</p>

所 属	文学部 コミュニケーション学科 教授		
氏 名	芳賀 康朗		
専 門 分 野	心理学		
所 属 学 会	日本心理学会／日本基礎心理学会／日本認知心理学会／ヒトと動物の関係学会		
キーワード	心理学		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

基礎心理学・ 実験心理学 心理学教育	ヒトの認知過程とノンバーバル・コミュニケーションに関する研究 大学における心理学教育の紹介
--------------------------	--

連携事業等へのアピールポイント

- ①わたしたちはコトだけでなく、視線、表情、ジェスチャーなどのノンバーバル情報を用いて他者とコミュニケーションをとっています。ノンバーバルな情報がどのような情報を伝達し、どんな印象を与えるのか、といった問題に関心をもっています。
- ②心理学は身近な「ココロ」を扱う学問であるため、誤解されることもしばしばあります。学問としての心理学、科学としての心理学の姿を、簡単な実験を通じてご紹介できると考えています。

主な研究課題と今後の展開

- ①コミュニケーション場面におけるジェスチャーの役割 …… 身振りや手振りなどのジェスチャーがいかにコミュニケーションを促進するのかといった問題について、心理実験や行動観察の手法を用いて取り組みます。またジェスチャーが行為者自身の内的思考に及ぼす影響についても検討しています。
- ②ヒト特異性の認識 …… わたしたちヒト（Homo sapiens）の「ヒトらしさ」についての認識構造を明らかにするために、身近な脊椎動物（イヌやチンパンジーなど）に対する認識と比較しながら検討しています。

社会活動（学外委員等）

令和5年 高等学校における課題研究の支援（津西高等学校）
令和元年 高等学校における探究学習活動の支援（宇治山田高等学校）

講演活動実績

令和4年 皇學館大学オープンキャンパス模擬講義「オンラインコミュニケーションはなぜもの足りないのか」
令和3年 皇學館大学月例文化講座「ノンバーバル・コミュニケーションの役割」
令和3年 みえアカデミックセミナー 2021「カラダの外に浸み出すココロ」

所 属	文学部 コミュニケーション学科 准教授		
氏 名	川村 一代		
専 門 分 野	外国語教育		
所 属 学 会	小学校英語教育学会／中部地区英語教育学会／全国英語教育学会／日本言語テスト学会／日本児童英語教育学会／大学英語教育学会		
キーワード	国際理解・外国語	学校教育	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

小学校英語教育	教員研修、講演、授業指導助言、県市町の英語教育事業の委員・指導助言
中学校英語教育	教員研修、講演、授業指導助言、県市町の英語教育事業の委員・指導助言

連携事業等へのアピールポイント

県や市町、学校主催の小学校外国語活動・小学校英語・中学校英語・小中連携に関する講演や教員研修を過去 10 年以上に亘り、200 回以上行った。その間、「現場で使える」ことを念頭に小・中学校の先生方とともに授業研究を行ってきた。小・中学校における英語授業研究の成果を講演や教員研修を通してお伝えできることに喜びを感じている。

令和 2 年度より小学校で教科としての英語が始まり、小・中学校における英語教育が大きく変わっている。学習指導要領に基づく英語の授業をよりよいものにするため、お役に立てれば幸いである。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

題目：小・中学校外国語科における「話すこと〔やり取り〕」の評価

概要：現行の学習指導要領より「話すこと」が双方向で話す「やり取り」と一方向に話す「発表」にわけられた。現在「やり取り」の評価には教師による「面接型」テストが主に用いられているが、学習者同士の「対話型」テストの方が「やり取り」をより適切に評価できるのではないかと考え、「やり取り」を評価するには、どちらのテスト形式がより適切かを、言語発達段階を考慮して調査する。

到達目標と令和 6 年度の取組ポイント：中学校で実施した生徒が指導者と話す「面接型」テストと生徒同士が話す「対話型」テストにおける生徒の発話を評価観点に照らし合わせて分析し、「面接型」テストと「対話型」テストでは生徒の発話が同じなのか、異なるのかを調査した。その成果を海外学会で発表し、論文にまとめ投稿する。

課題の背景：小・中学校の教員から、流動的である「やり取り」の評価の仕方がよくわからないという声を聞く。「やり取り」のより適切な評価方法が提案できれば、小・中学校のみならず英語教育全般に貢献できると考える。

社会活動（学外委員等）

中部地区英語教育学会運営委員（平成 27 年～）／玉城町英語教育推進アドバイザー（平成 29 年～）／東京書籍 NEW HORIZON Elementary 著作関係者（平成 29 年～）／三重県小中学校英語教育研究会顧問（平成 30 年～）／小学校英語教育学会三重県理事（平成 31 年～）／三重県小学校英語教育研究会会長（平成 31 年～）／小学校英語教育学会学会誌査読委員（令和元年～4 年）／桑名子ども英語コンテスト審査委員長（令和元年、5 年）／三重県教育委員会英語教育推進事業講師（令和元年～2 年）／三重県教育委員会英語教育小中連携研究・開発チームアドバイザー（令和 3 年～）

講演活動実績

四日市市小学校外国語教育研究協議会「外国語（英語）に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする子の育成（令和 5 年）／三重県教育委員会小中連携研究・開発チームに係る研修会「小中のつながりを意識した小学校外国語授業」（亀山市、伊勢市、伊賀市、志摩市）（令和 4 年～）／中学校英語地域別研修会（四日市市）「小中連携を意識した英語の授業」（令和 4 年）／松阪市英語コミュニケーション力向上推進事業研究指定校公開授業研究会「外国語教育における主体的・対話的で深い学び」（令和 4 年）／中学校英語地域別研修会（桑名市）「逆向き設計論を活用した授業づくり～言語活動と練習を意識して～」（令和 3 年）／三重県教育委員会英語教育推進事業モデル校公開授業及び講演会「小学校外国語教育の指導と評価」（令和 3 年）／津市教職員研修会英語授業改善研修「ALT との効果的な TT について」（令和 3 年～）／三重県ブロック別研修講座英語・外国語活動「小学校外国語活動・外国語科の授業づくり」（平成 26 年～）

所 属	文学部 コミュニケーション学科 准教授		
氏 名	栗野 理恵子		
専 門 分 野	臨床心理学／音楽心理学・音楽療法／健康心理学		
所 属 学 会	日本心理学会／日本心理臨床学会／日本カウンセリング学会／日本感情心理学会／日本生理心理学会／日本音楽療法学会／日本音楽心理学音楽療法懇話会／東海心理学会		
キーワード	心理学		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

心理学教育	音楽心理学とはなにか、 コミュニケーションのワーク
小学校・中学校、 青少年	こころの病気の予防のためにできることの体験ワーク、講演
健康づくり支援	自分のための時間作り、受容的音楽聴取のすすめ等の体験ワーク

連携事業等へのアピールポイント

「健康づくりのために、日々あなたは何をしていますか？」と尋ねると、ほとんどの人が身体を動かす事、食事に気を付ける等を挙げますが、こころに重点を置いた対策はあまり挙げられません。一方、こころの不調を考える際には、身体の変化に注意が向きにくいところがあります。

連携事業では、日常の「健康づくり」についてあらためて考え直す機会を提供し、こころの健康を維持するために何が出来るのか、心理学的知見に基づいてお話をします。また体験ワークを通して、身体で気づきを得て学ぶ場を提供します。

主な研究課題と今後の展開

題目 受容的音楽療法の研究動向に関する概観（研究1）

音楽療法におけるフォーカシング指向音楽聴取法の有効性の考察（研究2）

概要 近年の受容的音楽療法の研究動向について概観し、今後の課題を展望します（研究1）。大学生にフォーカシング指向音楽聴取法を継続的に実践・体験してもらい、その体験がもたらす心理・生理的反応の特徴を明らかにします（研究2）。到達目標と取り組みのポイント 近年の受容的音楽療法研究の動向をとらえ、どのような対象にどのような方法で実施されているのかを明らかにするとともに、今後の受容的音楽療法の研究発展に向けて展望します。また、実験研究によりフォーカシング指向音楽聴取法の継続的な実践がもたらす心理・生理的反応特徴を明らかにし、受容的音楽聴取法の有用性を提示したいと考えています。

社会活動（学外委員等）

平成16年4月～現在に至る：四日市市教育委員会ハートサポーター

令和3年4月～令和5年5月：一般社団法人 三重県公認心理師会 副会長、 職能・研修委員会委員長

令和5年6月～現在に至る：一般社団法人 三重県公認心理師会 理事

講演活動実績

令和4年6月 志摩市立磯部中学校模擬講義「体験して学ぼう 毎日の生活から発見！心理学」／令和5年7月 皇學館中学校模擬講義「臨床心理学入門～伝える・聞く～」／令和4年6月 皇學館大学オープンキャンパス「未来発見セミナー 文学部コミュニケーション学科 ～公認心理師の仕事～」／令和5年6月 皇學館大学オープンキャンパス「未来発見セミナー 文学部コミュニケーション学科 ～心理学の仕事～」／令和6年1月 みえ公心 2023 年度長期研修会「第1回 福祉領域における心理職の役割」

所 属	文学部 コミュニケーション学科 准教授		
氏 名	高沢 佳司		
専 門 分 野	臨床心理学		
所 属 学 会	American Psychological Association / The World Association for Person Centered & Experiential Psychotherapy & Counseling / 日本心理学会 / 日本パーソナリティ心理学会 / 日本カウンセリング学会 / 日本人間性心理学会		
キーワード	心理学		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

メンタルヘルスマネジメント・啓発	精神疾患の予防や心理的健康の増進にかかる講演、心理教育、および情報提供
	認知行動療法、イップス対策、防犯

連携事業等へのアピールポイント

学校、自治体、企業等への講演・出張授業が可能です。主な話題はメンタルヘルスに関するものですが、他にも教育心理／発達心理／社会心理／犯罪心理に関する話題にも可能な限り対応します。詳しくは「講演活動実績」をご覧ください。

主な研究課題と今後の展開

現行の研究計画で進行しているものは以下の通りです。

- (1) 考え込み等によって「心ここにあらず」の状態になりやすいパーソナリティ傾向、およびその傾向と精神疾患リスクや犯罪不安との関連
- (2) 対象との心理的距離を広げることによる心理的快適さを応用した心理療法、および思考や表象への心理的距離の変化に関する、解釈レベル以外による情報処理過程の解明

今後の展開として、

- a. (1) のパーソナリティ傾向を測定可能とした心理尺度（英語版）の大規模な疫学的調査
- b. (2) の情報処理過程解明にかかる実証実験を計画しています。

社会活動（学外委員等）

日本カウンセリング学会 カウンセリング研究編集委員

講演活動実績

愛知カウンセリング研修会講師「フォーカシング」令和5年8月；令和元年8月
 皇學館大学講師派遣プログラム「思考のクセ、かたよりをほぐしたい時は」 暁高校 令和6年3月；相可高校 令和5年7月；高田高校 令和4年7月；三重県農業大学校（講座名：現代社会と文化） 令和3年11月
 中部ブロック防犯ボランティアフォーラム「目撃の心理学～注意と記憶～」令和5年7月；「目撃の心理学と防犯ボランティアに参加したい学生へのインタビュー」 令和3年6月
 三重県安全・安心まちづくりフォーラム「防犯と心理学～理論と持続可能性～」令和4年8月
 安全・安心まちづくり地域リーダー養成講座「心の視点から防犯を考える」令和2年10月
 宇治山田高等学校・二学年探究学習「第一印象を良くするための方法論に関する考察」令和元年8月

所 属	文学部 コミュニケーション学科 准教授		
氏 名	玉田 貴裕		
専 門 分 野	英語学／言語学		
所 属 学 会	日本英語学会／日本英文学会／近代英語協会／名古屋大学英文学会		
キーワード	文学・言語学	国際理解・外国語	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

文化振興活動	英語史や古英語、中英語に関する知識普及活動
--------	-----------------------

連携事業等へのアピールポイント

今世界で話されている英語は、5世紀半ばに、後にアングロサクソン人と呼ばれるゲルマン系の小部族がブリテン諸島に持ち込んだ言語が、言語内外の諸要因により、大小さまざまな変化を経て形成されたものです。現代英語がどのような要因によりどのような変化を経て今の姿になったのかに関心があります。講演や読書会などを通じて、英語の歴史や、古英語（5世紀～11世紀）・中英語（11世紀～15世紀）の文法的特徴や音の響きについて知っていただくお手伝いができたらと思っています。

主な研究課題と今後の展開

現在は結果構文の用法の歴史的変化について研究しています。結果構文とは John hammered the metal flat（ジョンはその金属を叩いて平にした）のような文のことですが、現代英語に比べて、初期の英語ではこの構文の種類が非常に限られていました。この研究では、結果構文の用法がどのような要因でどのように拡張していったのかを、他の構文や他言語の同タイプの構文と比較しながら調査をしています。

社会活動（学外委員等）

史的英語学研究会大会運営委員（令和3年～現在に至る）
日本英文学会中部支部大会準備委員（令和6年～現在に至る）

講演活動実績

令和3年度 皇學館大学月例文化講座「言語の違いが物事の捉え方に及ぼす影響」（令和3年8月）

所 属	文学部 コミュニケーション学科 准教授		
氏 名	中山 真		
専 門 分 野	社会心理学／臨床心理学		
所 属 学 会	日本心理学会／日本社会心理学会／日本グループ・ダイナミックス学会／日本パーソナリティ心理学会／東海心理学会／日本カウンセリング学会		
キーワード	心理学	幼児教育・保育・子育て支援	学校教育

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

心理学教育	ストレスマネジメント、アンガーマネジメント、子どもの発達理解等の講演
-------	------------------------------------

連携事業等へのアピールポイント

専門分野は対人関係、ストレスです。臨床心理士として、スクールカウンセラーの経験があります。これまで、ストレスや怒りのマネジメント、子どもの発達過程、身近な人間関係に関する講演や研修を行ってきました。また、以前は恋愛関係（告白行動における第三者の関与、失恋による人間的成長）について研究をしていました。出会いや結婚、恋愛・婚活の実践に携わることができないか思案しています。

主な研究課題と今後の展開

社会的クリティカルシンキングの有用性

クリティカルシンキング（批判的思考）とは、①証拠に基づく論理的で偏りのない思考、②自分の思考過程を意識的に吟味する省察的で熟慮的思考、③より良い思考を行うために目標や文脈に応じて実行される目標指向的な思考のことです。このような思考は、これからの社会に必要なジェネリックスキル（汎用的能力）の1つとして国内外で注目されています。しかし、そのような能力を持つ人物への親しみにくさも指摘されています。この問題をクリアするために、多様性を認め、偏りなく他者を理解し、文脈や状況によっては譲歩することができる、社会的クリティカルシンキングという概念が登場しました。しかし、他者評価や具体的な日常生活場面でその能力がどのように活用されるかについて、検討はなされていません。今後の研究により、それらの点を明らかにしていきたいと考えています。

社会活動（学外委員等）

日本パーソナリティ心理学会 機関誌編集委員（平成29年9月～令和4年3月）
東海心理学会第68回大会（皇學館大学）準備委員（平成31年4月～令和元年6月）
三重県公認心理師会設立発起人会 発起人（令和3年2月～令和3年4月）
三重県公認心理師会 常任理事（令和3年4月～令和5年5月）

講演活動実績

三重県立宇治山田高等学校2学年探究学習における助言（令和元年8月・令和3年2月）／皇學館高等学校高校内進路ガイダンス講師（令和元年9月・10月）／皇學館大学オープンキャンパス体験型プログラム「聞いてよかった！高校生のための心理学講座」（令和3年7月）／皇學館大学月例文化講座「対人関係とストレスの心理学」（令和3年11月）／志摩市立大王中学校大学見学模擬授業「体験で学ぶ心理学」（令和4年10月）／皇學館大学オープンキャンパスAO対策セミナー「Romantic Love 恋愛研究で学ぶ はじめての心理学」（令和5年8月）／三重県立津西高等学校2学年課題研究における助言（令和5年8月）

教 育 学 部

教 育 学 科

所 属	教育学部 教育学科 教授		
氏 名	大杉 成喜		
専 門 分 野	特別支援教育学／教育工学		
所 属 学 会	日本特殊教育学会／日本教育工学会／日本教育情報学会／日本育療学会／ 日本 LD 学会／日本生活科・総合的学習教育学会		
キーワード	特別支援教育	学校教育	福祉・高齢者・人口減少

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

特別支援教育工学	Assistive Technology（支援技術）による障がいのある児童生徒、学生、成人の支援
特別支援教育	特別支援学校、小学校・中学校・高等学校等の支援（教育相談等）
プログラミング教育	プログラミング教育にかかる支援（Viscuit、micro:bit、ドローンプログラミング等）

連携事業等へのアピールポイント

県内外の特別支援学校や伊勢市健康福祉課・教育委員会と連携して取り組みを行っているほか、日本教育情報学会、マジカル・トイボックス、東海特別支援教育カンファレンス、三重県ライフサポートフェスタ等全国的な研究会や地域根ざした研究会とも連携してICT 活用、プログラミング教育（Viscuit、micro:bit、ドローン等）の推進に力を入れています。特別支援教育と教育工学の学際的研究として、障がいが高くほとんど身体を動かすことができない幼児児童生徒学生に対して視線入力装置をはじめ様々な機器利用により「できること」を増やす実践をすすめてきました。

主な研究課題と今後の展開

- ・ 題目 プログラミング教育／肢体不自由のある児童生徒の視線入力の活用研究
- ・ 概要 文部科学省の「教育の情報化に関する手引 - 追補版 - (令和2年6月)」[「小学校プログラミング教育の手引 (第三版令和2年2月)」]の改訂を受け、実践研究を行っています。小学校での授業や中学校の部活動、市民講座としてViscuit や micro:bit、トイドローンをを用いたプログラミング教育、特別支援学校等では障害に応じた機器利用（アシスティブ・テクノロジー）にかかる実践研究を進めています。
- ・ 到達目標と次年度の取り組みのポイント
これまで小学校低学年の子どもの Viscuit、中学年の子どもの micro:bit、ドローンプログラミングにおける思考の深まりについて検証してきました。また、皇學館中学校未来理工部と連携してプログラミングについて支援してきました。次年度もさらに実践を進めるとともに、引き続き障害のある人の視線入力デバイス等の ICT 機器活用研究を進めます。

社会活動（学外委員等）

京都府特別支援教育専門家チーム（平成29年～現在に至る）／伊勢市教育委員会教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価委員（平成30年～令和4年度）／伊勢市障害者施策推進協議会委員（平成30年～現在に至る）／音声教材の効率的な制作方法等に関する調査研究協力者（愛媛大学・令和元年～現在に至る）／三重県立特別支援学校玉城わかば学園学校関係者評価委員（令和2年～現在に至る）／福岡県教育委員会重点課題研究専門委員（令和3年度～5年度）

講演活動実績

- ◎特別支援学校
重度・重複障害教育における ICT 活用の現状と課題（令和元年）／重度重複障害教育における視線入力装置の活用（令和2年）／特別支援教育における ICT・アシスティブテクノロジーの活用（令和2年・令和3年・令和4年・令和5年）
- ◎教育委員会・教育センター・校長会等
知的障害者の心理と指導法（平成30年～現在に至る）／特別支援学校における ICT 活用（令和3年～現在に至る）

所 属	教育学部 教育学科 教授		
氏 名	加藤 純一		
専 門 分 野	保健体育科教育法		
所 属 学 会	日本体育学会／日本体育科教育学会／日本武道学会／日本家庭教育学会／身体運動文化学会／全国小学校体育研究連盟		
キーワード	芸術・スポーツ	学校教育	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

体育・保健体育（授業）	小中学校での授業をサポート
体育・保健体育（担当者）	言語活動の充実、新学習指導要領、小中連携の仕方
剣道	児童・生徒・学生・一般（外国人を含む）に対しての剣道の普及と指導

連携事業等へのアピールポイント

自分は体育が苦手だから、児童に体育を指導するのは難しいと感じている先生方に寄り添えればと考えています。例えば逆上がりができなくても、児童に逆上がりをさせることは可能です。動きを言語化していくことでそれは可能となり、示範せずに達成へ導くこともできます。

また、運動嫌いな子ども、技ができなくて体育がつまらないと思っている子どもにも寄り添いたいと思っています。一人でも多くの児童・生徒が、体育って楽しいと思ってもらえるよう、お手伝いできればと考えています。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

小学校や中学校における体育・保健体育の授業の展開のあり方について研究を進めています。現在は ICT を活用した授業の展開に注目しています。

社会活動（学外委員等）

身体運動文化学会理事（令和4年4月～現在に至る）
 日本武道学会剣道分代会評議員（令和4年4月～現在に至る）
 三重県剣道連盟理事（平成31年4月～現在に至る）
 鳥羽市剣道連盟理事（平成31年4月～現在に至る）
 全日本剣道連盟国際委員会委員（平成17年4月～現在に至る）
 全日本剣道連盟総務資料委員会委員（平成2年4月～現在に至る）

講演活動実績

令和4年7月 皇學館大学月例文化講座 第2回「解釈する身体・解釈しない身体—武道論的視座からのアプローチ」
 令和3年8月 令和3年度教員免許状更新講習 講師
 令和5年7月 志摩市学校保健会研修 講師「心と身体の一体化」
 令和5年12月 志摩市学校保健会 「姿勢体操」監修
 令和6年3月 第19回世界剣道選手権大会 審判員候補者対象審判講習会通訳（日本語—韓国語）

所 属	教育学部 教育学科 教授		
氏 名	叶 俊文		
専 門 分 野	体育心理学		
所 属 学 会	日本スポーツ心理学会 日本体育学会 日本教育心理学会		
キーワード	芸術・スポーツ	学校教育	心理学

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

--	--

連携事業等へのアピールポイント

子どもの運動や高齢者、障がいのある方への運動サポートなどの事業に協力できると思います。

主な研究課題と今後の展開

子どもの体育・運動への動機づけを研究

現在は体育授業が子どもたちのマイナス感情の誘因になっているのではないかと考えて調査しています。

また、コミュニケーション能力を高める準備運動などを考えています。

社会活動（学外委員等）

三重県障がい者スポーツ指導者協議会理事

伊勢市スポーツ推進審議会 会長

講演活動実績

- ・伊勢市健康づくりアドバイザー養成講座「生活習慣病予防のための運動」
- ・伊勢市スポーツ少年団指導者研修会「困っている子どもへの対応」
- ・伊勢市健康課事業「ウォーキングの効果を考える」

所 属	教育学部 教育学科 教授		
氏 名	駒田 聡子		
専 門 分 野	食育・調理学・子育て支援		
所 属 学 会	日本調理科学会、日本保育学会、日本食育学会、日本生活科・総合的な学習教育学会、日本小児アレルギー学会		
キーワード	幼児教育・保育・子育て支援	健康づくり・食育	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

健康教育	教員・保育者研修 保護者支援
食育	教員・保育者研修 保護者支援

連携事業等へのアピールポイント

- ・将来にわたり健康を維持し、健康増進を図るための生活習慣を中心とした教科教育、子育て支援、保護者支援の講演会活動を行います。
- ・また、三重の食材などを活かした調理体験など、実践的体験活動を通じた食育事業を行います。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

保育所における食物アレルギー児支援の実態と、事故予防のための視点
 地元食材を用いた食育活動の展開
 保育所における食育を中心とした実践活動の展開
 児童養護施設における食育実践

令和6年度予定

三重県総合博物館連携事業

津市中央公民館他：親子料理教室の開催

三重県・岐阜県保育総合 助言

三重県・大阪府など、保育士等キャリアアップ研修 「食育・アレルギー対応」「保健計画・事故対応」講師他

社会活動（学外委員等）

全国保育士会紀要委員（令和元年～令和3年）

伊勢市教育委員（令和元年～）

F M三重番組審議委員（令和3年～令和5年）

市立伊勢総合病院改革プラン評価委員 市立伊勢総合病院地域医療支援病院運営委員（平成29年～）

日本調理科学会次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理 三重県調査委員（同上）

みえ食文化研究会役員（平成28年～）

三重県立博物館協議会委員（令和4年～）

三重県みえメディカルバレー企画推進会議委員（令和3年～）

伊勢茶応援団 Ise Cheers（令和4年～）

講演活動実績

全国保育士会食育研究会講師（令和3年・4年）

（毎年依頼がある講習会・研修会講師）

保育士等キャリア・アップ研修 東京都、福岡県、三重県、岐阜県、大阪府、神戸市、吹田市講師 その他（食育・食物アレルギー、安全管理・保健衛生） 三重県保育協議会主催 三重県保育総合研修会助言者

岐阜県保育研究協議会主催 岐阜県保育総合研修会助言者 亀山市教育委員会主催 子育ての宝箱講師

三重県子育て支援員養成講座講師

所 属	教育学部 教育学科 教授		
氏 名	勢力 稔		
専 門 分 野	教師教育／学校マネジメント		
所 属 学 会	日本化学会／日本理化学協会		
キーワード	学校教育	ICT・メディアリテラシー	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

教師教育	養成、研修の分野で、教員の資質向上ために学校をサポートします。
学校組織マネジメント	学校を取り巻くさまざまな環境を的確に把握し、学校の有り様をその刻々と変化する環境の中に適応できるようサポートします。
授業改善 (ICT活用含)	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関し、授業方法（ICT 活用・評価手法）に関するサポートをします。

連携事業等へのアピールポイント

学校組織マネジメントの観点から、「教員の資質向上」、「教育活動の活性化」、「学校教育に関わる諸課題の危機管理」等に関して、現状分析から、今後の方向性まで教育現場の視点からサポートします。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

- ・ 題目 教育の方法と技術
- ・ 概要 少子高齢化、グローバル化、情報化と世の中の変化が学校教育に大きく影響を及ぼしています。予測するのも難しくなっている現在、様々な教育方法に目を向け柔軟に対応できる教師の在り方を研究していきます。そのため、具体的な教育方法に着目しどのような共通点やバリエーションがあるかを探求していきます。
- ・ 到達目標 カリキュラムマネジメントをもとに、様々な教育方法を活用し、継続的に授業改善を進めていくサイクルの確立。

社会活動（学外委員等）

日本理化学協会名誉理事（平成 29 年～現在に至る）

講演活動実績

伊勢市内小学校出前講座（有緝小平成 30 年，令和元年）
三重ジュニアドクター育成塾（平成 30 年～現在に至る）

所 属	教育学部 教育学科 教授		
氏 名	中條 敦仁		
専 門 分 野	国語教育学／キャリア教育学		
所 属 学 会	日本国語教育学会／全国大学国語教育学会／日本キャリア教育学会／日本笑い学会		
キーワード	学校教育	社会教育・生涯学習	ICT・メディアリテラシー

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

国語教育・言語教育	教材研究法および教科指導法。言語発達を踏まえた言語教育法
教育現場での ICT 機器活用	ICT 機器の特性を知り、有効活用を考える。また具体的活用方法の提案
キャリア教育・進路指導	自己の対話や自己探求活動の考え方と実践方法。進路ガイダンス

連携事業等へのアピールポイント

児童・生徒の「話す・聞く・書く・読む」の育成を目的とした、言語教育・国語の授業プラン作成のお手伝いや提供をおこないます。また、授業への ICT 機器の導入方法や有効な活用方法の提案をいたします。言語・国語教育、ICT 機器活用をととして、こどもの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたお手伝いができればと思います。

また、キャリア・カウンセラー資格、ガイダンスカウンセラー資格を有していることから、中高生向けの進路相談や進路ガイダンス、進路講演にも対応できます。絵本の読み聞かせ、紙芝居、笑いに関する講演会やワークショップにも対応できます。

主な研究課題と今後の展開

- ・ 題目：対話を生む国語の授業—物語文の場合—

概要：物語文は、主な登場人物の関係性からくる心情・行動の変化とそのきっかけを読み取ることにある。その読み取りに際して、言語情報を可視化しその結果を踏まえて、国語科の課題のひとつである対話力の向上の方法を開発、提案することを目的とする。

- ・ 題目：電子黒板とタブレット PC の連携による「主体的・対話的で深い学び」の実現

概要：GIGA スクール構想による 1 人 1 台タブレットが実現しつつある状況下、効果的な連携方法を探る必要がある。そこで、電子黒板とタブレット PC を連携させるための支援ツールを有効活用するためのデジタルワークシートの考案とその授業方法について検討し、その手法の提案を目的とする。

社会活動（学外委員等）

日本国語教育学会地区理事＜三重県＞（平成 24 年～）／日本笑い学会三重支部支部長（令和元年～）／公益財団法人三重こどもわかもの育成財団評議員（令和元年～）／株式会社三省堂教科書編集協力委員（令和 2 年～）／日本キャリア教育学会理事（令和 3 年～）／キャリア・カウンセラー資格認定委員長（令和 5 年～）

講演活動実績

津市教育研究会南ブロック国語部会研修会ワークショップ実施＜説明文教材の授業方法＞（令和元年）／三省堂中学校国語セミナー 2020 in 三重＜和歌教材の読みの方略＞（令和元年）／亀山市 市民ライブラリアン講座—絵本の魅力と可能性—（令和 4 年）／伊勢市教育委員会 学力向上推進事業における講演・助言（令和 4 年）／その他 三重県内小学校校内研修会における講演・助言

所 属	教育学部 教育学科 教授		
氏 名	中松 豊		
専 門 分 野	理科教育学／生物教育学／応用動物昆虫学		
所 属 学 会	日本生物教育学会 日本応用動物昆虫学会		
キーワード	数理・統計	学校教育	その他

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

理科教育学	小学校・中学校・高等学校理科出前授業、昆虫展、環境教育
生物教育学	昆虫の血球の生体防御に関する教材の提供、生物教育学会実験サポーター（小学校～社会人）
応用動物昆虫学 （昆虫生理学）	生体防御 寄生蜂に関する研究

連携事業等へのアピールポイント

理科教育分野については、昆虫を使った生理・生態系の展示説明、生物教育分野に関しては昆虫を使った実験・観察（出前授業も可）、応用動物昆虫分野では昆虫の免疫や寄生蜂を使った共同研究が可能。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

昆虫の免疫についての研究
 昆虫の内分泌についての研究
 昆虫を使った教材開発（保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校）
 授業実践（開発した教材を使った出前授業 ノースウェスト大学（南アフリカ共和国）との共同研究）

社会活動（学外委員等）


2023 年 11 月 - 現在 一般社団法人 日本生物教育学会，一般社団法人 日本生物教育学会（代議員・理事）
 2023 年 01 月 - 現在 アジア生物教育協議会隔年会議，第 29 回 アジア生物教育協議会隔年会議（A A B E）組織委員会委員
 2021 年 04 月 - 2022 年 03 月 伊勢市廃棄物減量等推進審議会，伊勢市廃棄物減量等推進審議会委員（会長）
 2021 年 03 月 - 一般社団法人 日本生物教育学会，日本生物教育学会 106 回全国大会（実行委員長）
 2020 年 04 月 - 2022 年 03 月 三重県教員育成協議会，三重県教員育成協議会委員
 2020 年 03 月 - 日本応用動物昆虫学会，第 64 回日本応用動物昆虫学会大会（副会長）
 2017 年 04 月 - 現在 伊勢市環境審議委員会委員（会長）
 2016 年 04 月 - 現在 伊勢赤十字病院，伊勢赤十字病院地域医療支援病院運営委員会
 2015 年 04 月 - 2017 年 03 月 伊勢市環境審議委員会委員（副会長）
 2011 年 07 月 - 2011 年 08 月 伊勢市中学校給食共同調理場生ごみ処理方法公募型選考委員会（副委員長）
 2011 年 03 月 - 2019 年 03 月 三重県環境影響評価委員会委員
 2010 年 08 月 - 2015 年 03 月 伊勢市廃棄物減量等推進審議会委員（会長）
 2009 年 04 月 - 2015 年 03 月 日本生物教育学会生物教育サポーター委員

講演活動実績

三重県高等学校理科教育研究会生物部会研修会（平成 31 年 2 月）
 アワヨトウと寄生蜂の関係 小笠原自然文化研究所との研究発表会（令和元年 8 月）
 三重ジュニアドクター育成塾における教育支援について 三重県・三重大学連携新博物館シンポジウム「博物館・大学・県民の連携がつくる学びの輪」（令和 2 年 3 月）

所 属	教育学部 教育学科 特命教授		
氏 名	村瀬 雅俊		
専 門 分 野	数学／複雑系科学／基礎物理学／生物学基礎理論／未来創成学／統合創造学		
所 属 学 会	国際教育学会		
キーワード	社会教育・生涯学習	数理・統計	その他

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）	
文理融合による統合的研究	創造性とはなにか？ノーベル賞の発想に学ぶ「出来ないからこそ創造の原点」
芸術と心理学の統合的研究	描くこと、一人ではないことへの気づきによる「心と身体と運動の統合に向けて」
未来創成学の展望と創造性	他者との競争から、自他一如の「共創」による輝かしい未来創造の展望

連携事業等へのアピールポイント	
<p>私は小学校5、6年生のとき、国語0点、算数0点、中学1年のとき、アルファベットが書けませんでした。その状態から、どうしたら、大学に入学して大学院に進み、博士号を取得して日本語や英語の本を書いたり、国際学会で講演したりできるようになったのでしょうか。すべての鍵は、自分自身の「ものの見方」にありました。「ものの見方」を変えると、それまで「目に見えなかった世界」が色鮮やかに輝きはじめ、語りかけはじめてくれたのです！もちろん、一生懸命に「遊びながら学ぶ」こともしました。それまでは「遊ぶだけ」でした。学友は逆に「学ぶだけ」でした。私たちは、「遊び」と「学び」を分けて考えがちです。そこに問題があったのです。「遊び」と「学び」をインターリーヴすることで、「共創と調和の循環論」を実践することになります。もちろん、みなさんにも、そのような機会を創り出すパワーがあるのです。</p>	
<div>研究シーズ集</div> 	

主な研究課題と今後の展開	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 題目1 『自然（じねん）の覚知——生命（いのち）の調和と循環』村瀬 雅俊・村瀬 智子 編著 出版 ・ 概要 頼住光子（東京大学大学院人文科学研究科教授）、松木邦裕（京都大学名誉教授）、西平直（京都大学名誉教授）、宮川清（東京大学大学院医学系研究科教授）、大野照文（皇學館大学特別招聘教授）を交えた共同研究推進 ・ 到達目標と次年度の取り組みのポイント 異分野交流を推進して、神道精神をも含めた1冊の編著本を作成する。 ・ 課題として取り上げた背景 京都大学において31年の実践展開を踏まえた総決算で複雑性の中に単純性を探究する。 ・ 題目2 Life as History and Future: The Emerging Paradigm of Co-creation beyond Humanity, Nature, and Society Authors: Masatoshi Murase and Tomoko Murase, Publisher: Springer-Nature ・ 概要 2000年に京都大学学術出版会から刊行した『歴史としての生命』、2020年にナカニシヤ出版より刊行した本書の増補版を英語版として出版を計画している（契約済み）。我が国から世界に向けて、「共創と調和の循環論」を提唱する。 	

社会活動（学外委員等）	
<p>京都大学・京都府教育委員会 連携推進事業推進委員（平成22年4月～現在に至る）／物性研究・電子版 編集長（平成24年4月～現在に至る）／国際教育学会理事（平成25年4月～現在に至る）／Journal of Integrated Creative Studies 編集長（平成27年4月～現在に至る）／立命館大学理工学部物理学科 非常勤講師（平成14年4月～現在に至る）／三重大学大学院医学研究科非常勤講師（平成30年4月～現在に至る）／日本赤十字豊田看護大学非常勤講師・哲学（令和2年4月～現在に至る）／滋賀県立膳所高等学校 SSH プログラム高大連携講座を担当（平成4年4月～現在に至る）</p>	

講演活動実績	
<p>Kyoto Manifesto II on Kyoto Symposium V — Polyphonic circular co-emergence 「京神話—動・不動の共創」(令和元年6月12日) 同志社大学 クラーク記念館／ASU/Future Design/FEAST Workshop on intergenerational futures “Opening and Enacting New Futures” (令和元年11月7日—9日) 総合地球環境学研究所 講演室／第3回こころの健康づくりシンポジウム 日本赤十字豊田看護大学講堂・令和元年12月14日(土)「『無』に挑む—湯川秀樹の見果てぬ夢」／京都大学・京都府教育委員会連携事業の一貫として、高大連携講座を担当 京都府立鴨沂高等学校 出前講義（平成30年4月～現在に至る）</p>	

所 属	教育学部 教育学科 教授		
氏 名	吉田 直樹		
専 門 分 野	発達心理学／環境心理学／臨床心理学		
所 属 学 会	日本心理学会／日本教育心理学／日本発達心理学会／人間環境学会／ 日本環境心理学会／日本保育者養成教育学会		
キーワード	心理学	幼児教育・保育・子育て支援	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

教育・子育て・青少年	子どもや保護者が発信するサインを受け取り支援につなげるネットワーク作り
------------	-------------------------------------

連携事業等へのアピールポイント

子どもの発達や児童虐待の問題について、臨床的なアプローチやアセスメントを通して考えるとともに、保護者支援のプログラム開発や運用についても取り組みます。

主な研究課題と今後の展開

児童虐待や子育て支援に関するケースカンファレンス、スーパービジョンの事例研究から、子どもの生活環境や保育環境の状況を把握し、子どもの成長・発達に適した人的環境・物理的環境を準備するためのマニュアルを作成する。

社会活動（学外委員等）

伊勢市立中島小学校評議員（平成 22 年 4 月～現在に至る）／鳥羽市「総合子ども相談」スーパーバイザー（平成 29 年 8 月～現在に至る）

講演活動実績

明和町児童虐待防止講演会／鳥羽市保育所職員研修会
三重県児童相談センター児童福祉に関する指定講習
三重県要対協調整担当者研修

所 属	教育学部 教育学科 教授		
氏 名	渡邊 賢二		
専 門 分 野	教育心理学／家族心理学		
所 属 学 会	日本心理学会／日本教育心理学会／日本家族心理学会／日本発達心理学会		
キーワード	心理学	学校教育	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

保育現場や教育現場	講演やグループワークを用いた予防的な支援
幼児・児童の保護者	講演やグループワークを用いた予防的な支援

連携事業等へのアピールポイント

心理学の研究知見を基に、教育現場においての幼児、小学生、中学生の心理や支援、発達に課題のある子どもをもつ保護者や支援をする先生方に研修や講演、また不登校やいじめなどの予防的な支援、保護者を対象に、子育て支援などを実施します。

主な研究課題と今後の展開

題目：心理教育を用いた児童生徒のソーシャルスキルの獲得
概要：小中学校において、心理教育プログラムを実施しソーシャルスキルを獲得することを目的とする。
継続的に、定期的に心理教育プログラムを実施することにより、児童生徒のソーシャルスキルや自己肯定感が向上するため、年間、また学校をあげて取り組む必要性があると考えられる。

社会活動（学外委員等）

三重県教育委員会いじめ問題対策連絡協議会委員（令和2年4月～）
三重県教育委員会不登校支援アドバイザー（令和2年4月～）
三重県教育委員会指導改善研修審査委員（平成29年7月～）
伊勢市いじめ問題対策委員会委員長（平成28年3月～） など

講演活動実績

令和6年1月「自傷行為を行う生徒の理解と対応」鈴鹿市教育委員会（平田野中学 教員研修）
令和6年1月「気になる子の理解と保護者との関わり方」伊勢市御園第一保育園（保育士研修）
令和6年1月「不登校児童生徒に対するSST」伊勢市教育委員会（小・学校教員研修）
令和5年12月「子どもの自己肯定感を育むためにー心理教育を用いた実践ー」伊勢市学校保健会（小・中学校教員研修）
令和5年12月「不登校生徒の理解と支援」四日市メリノール学院（中学・高校教員研修）
令和5年12月「レジリエンス教育について」三重県教育委員会（小・中・高校教員研修）
令和5年11月「課題のある子どものこころと課題」鈴鹿市教育委員会（小・中学校教員青年部教員研修）
令和5年8月「レジリエンスを育むために」三重県教育委員会（小・中・高校・特別支援学校養護教諭研修）
令和5年8月「課題のある子どもの理解と支援ー信頼関係の構築と維持ー」紀北町教育委員会（小・中学校教員研修）
令和5年8月「不登校の子どもの理解と多様な支援」鳥羽志摩教育委員会（小・中学校教員研修）など

所 属	教育学部 教育学科 教授		
氏 名	渡邊 毅		
専 門 分 野	道徳教育		
所 属 学 会	日本道徳教育学会／日本生徒指導学会／日本学校カウンセリング学会		
キーワード	道徳教育	学校教育	地域づくり

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

道徳教育振興活動	中学校検定道徳教科書及び指導書の執筆と各種雑誌への寄稿
同上	第9回皇學館大学道徳科教育研究協議会研究大会の開催

連携事業等へのアピールポイント

伊勢の学習塾とゼミ学生が連携した道徳授業「人間力・生き方」講座（小中学生対象）の実施
「不登校激減法」の番組制作（皇學館大学大学生テレビ局）
「学級崩壊克服法」の番組制作（皇學館大学大学生テレビ局）
「不登校予防法」の番組制作（皇學館大学学生テレビ局）
「不登校緊急対応」の番組制作（皇學館大学学生テレビ局）

主な研究課題と今後の展開

「先人の伝記」を活用したより効果的な道徳授業の展開が主な研究課題です。現在そうした授業に力を注いでいる学校と連携して研究を進めています。また、小学校・中学校や学習塾でゼミ学生たちと出前授業を行ったりしていますが、今後現場の先生方と道徳教育の実践やその内容・方法の研究について交流と連携を深めることができればと思っています。

社会活動（学外委員等）

日本教師会会長（現任）
三重県教師会会長（現在）

講演活動実績

R1 志を立てよう（浪速中学校1年生道徳授業）／R2 志を立てよう（浪速中学校1年生道徳授業）／R3 志を立てよう（浪速中学校1年生道徳授業）／R3 道徳教育の成果（浪速中学校 教員研修）／R4 こうすれば君たちはグリーンと伸びる（浪速中学校1年生道徳授業）／R4 明日の学校を創る道徳教育（月例文化講座）／R5 こうすれば君たちはグリーンと伸びる（皇學館高校講演）／R5 こうすれば君たちはグリーンと伸びる（浪速中学校1年生道徳授業）／R5 教師の使命とこれからの日本教師会（日本教師会教育研究大会講演）

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	市田 敏之		
専 門 分 野	教育行政学		
所 属 学 会	日本教育行政学会／日本教育制度学会／西日本教育行政学会／日本教育経営学会		
キーワード	学校教育		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

教育行政・政策分野	教育政策の立案や評価に関する知見の提供
子育て支援行政・政策分野	子育て支援政策の立案や評価に関する知見の提供

連携事業等へのアピールポイント

学校や地域の発展・振興のためのお手伝いができれば幸いです。

主な研究課題と今後の展開

米国初等中等教育段階における科学技術人材育成政策に関する研究

米国の初等中等教育段階における科学技術人材育成政策について、政策背景や立案過程、カリキュラムや教育プログラム、教員の確保等について明らかにし、特質と課題を考察することを試んでいます。

我が国における地方教育財政に関する研究

我が国の市町村教育財政の実態について明らかにし、特質と課題を考察することを試んでいます。

社会活動（学外委員等）

明和町子ども・子育て会議（平成 25 年 7 月～現在に至る）

鳥羽市教育委員会点検・評価報告書外部評価員（平成 30 年 9 月～現在に至る）

講演活動実績

特記事項なし。

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	井上 兼一		
専 門 分 野	教育史学		
所 属 学 会	教育史学会／日本教育方法学会／日本カリキュラム学会／中部教育学会／明治聖徳記念学会／日本仏教教育学会		
キーワード	学校教育	歴史・文化	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

子ども・教育	学校史の調査など
--------	----------

連携事業等へのアピールポイント

昭和 10 ～ 20 年代における学制改革について研究しています。特に初等教育に焦点をあてて、審議会の議事や教育政策の分析を行っています。また政策を受容した学校に与えた影響やそれ以前から変容したことについて探究しています。教育史に関することで、地域に貢献することができればと思います。

主な研究課題と今後の展開

研究課題について、尋常小学校から国民学校への改革について再検証しています。制度だけでなく、教科課程の変化について検討しています。近年では、被占領期において地方教育行政がどのように変化したのかという点にも関心を寄せています。発足直後の三重県教育委員会の活動や打ち出された政策とその展開にかかる資料の整理を行っており、今後も継続していく予定です。

社会活動（学外委員等）

中部教育学会理事（平成 30 年～現在に至る）

講演活動実績

「三重県における新制中学校の整備とカリキュラム改革」（日本教育学会中部地区・中部教育学会共催公開シンポジウム「中部の教育 150 年をふりかえる」）令和 5 年 3 月
「（基調講演）新たな時代に向けての私学の教育課程」（一般財団法人日本私学教育研究所、第 56 回中部地区私学教育研修会）令和 5 年 10 月

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	上野 祐一		
専 門 分 野	算数・数学教育／複素領域における微分方程式・可積分系・特殊函数論		
所 属 学 会	日本数学会 日本数学教育学会 日本科学教育学会		
キーワード	数理・統計	学校教育	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

算数・数学教育	小学校・中学校・高等学校における算数・数学教育全般
数学（解析学）	複素領域における微分方程式・可積分系・特殊函数論

連携事業等へのアピールポイント

算数教育分野においては、保育所、幼稚園、小学校、また、数学教育分野においては中学校、高等学校においてICT機器や教材・教具を用いて算数・数学的活動を通じた出前授業の実施を行っていきたいと考えております。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

◆算数・数学教育

算数・数学科の学習指導要領に基づき、保幼小中高連携という観点からその意義を知り、現場で生かせるような教材開発を行っていきたいと考えています。

児童・生徒に算数・数学の面白さを伝えるには、算数・数学における実践的な指導力を身につけることが必要となります。そのために、自分自身の高等学校での現場での経験を踏まえ、どのようにすれば保幼小中高連携という視点から一貫した教育ができるのかについての研究を行っています。

◆数学（解析学）

複素領域上の非線形微分方程式論について研究しています。既知の関数を使って解が書けないような微分方程式、特に「パンルヴェ方程式」に興味を持っています。また、パンルヴェ方程式は数理物理への応用が見つかっており、そこについても興味を持って研究しています。

社会活動（学外委員等）

【令和4年、令和5年、令和6年】中大連携事業（皇學館中学校3年生 数学研究）皇學館中学校
 【令和5年】海星高等学校1年生進路ガイダンス／鈴鹿高等学校1年生「総合的な探究の時間」における探究指導／三重県立四日市西高等学校2年生進路ガイダンス『模擬授業』（教育）／東海地方数学教育会第70回研究（三重）大会 中・高の関連助言者／三重県立神戸高等学校1年生『模擬授業・体験授業』／皇學館高等学校2学年夏期学習会講師／滝川高等学校1年生進路説明会（教育）／三重県立尾鷲高等学校3年生分野別志望理由指導（教育分野）／三重県立松阪高等学校SSH研究開発に係る運営指導委員／三重県立昂学園高等学校「ナイツクール」／2023年度三重県立松阪高等学校SSH研究成果発表会 講師／IS数学授業研究会 講師
 【令和4年、令和5年】三重県立四日市西高等学校1年生進路ガイダンス／三重県立木本高等学校1年生分野別模擬授業（教育）三重県立木本高等学校／岐阜県立恵那高等学校2年生総合探究「社会課題に取り組もう」岐阜県立恵那高等学校／三重県立木本高等学校2年生進路ガイダンス『模擬講義』（教育）／各単元についての発展的数学授業実践～橋北中生徒の数学的感覚を養うために～津市立橋北中学校／皇學館高等学校 高大連携 数学科授業 皇學館高等学校
 【令和4年】数学科教職員研修会 伊勢学園高等学校／三重県立白子高等学校3学年入試ガイダンス 三重県立白子高等学校／三重県立久居高等学校1年生進路オンラインガイダンス（教育・教員養成系）三重県立久居高等学校
 【令和3年】三重県立木本高等学校1年生分野別模擬授業（教育）三重県立木本高等学校／桑名高等学校理数科1年フィールドワーク 三重県総合博物館

講演活動実績

- ・三重県高等学校数学教育研究会「第2回研究集会」（令和4年12月）
- ・高校生になる前につけたい力 津市教育研究会数学科会 津市立芸濃中学校（令和4年8月）
- ・教職実践演習における講話（国立大学法人 鹿屋体育大学）（令和5年）

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	小川 真由子		
専 門 分 野	小児保健／子育て支援／学校救急／性教育		
所 属 学 会	日本保育学会／日本学校保健学会／日本学校救急看護学会／日本健康相談活動学会／日本養護教諭教育学会／東海学校保健学会／愛知県看護教育学会／日本小児保健協会		
キーワード	幼児教育・保育・子育て支援	健康づくり・食育	学校教育

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

幼児教育・保育分野	乳児保育、子どもの保健、健康と安全の分野における研修
子育て支援分野	地域子育て支援活動、孫育て講座の研修
健康づくり分野	教育現場に必要な救急処置、食物アレルギー対応の研修、出前性教育講座

連携事業等へのアピールポイント

学校、家庭、地域と連携しながら、子育て支援や子どもの健康と安全を守るための活動に従事していきたいと考えています。保育、教育に携わる志を持つ学生の人材育成に携わる一方で、学校や子育ての現場との連携を密にし、ニーズや困りごとに耳を傾け、一体となって解決方法を模索していくための実践活動を行いたいと思います。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

①「シミュレーション教育による救急時対応力の向上」

保育・学校現場で起こりやすい傷病の事例について、緊急時対応の実践力を養うためのシミュレーション教育プログラムを実施し、その効果や改善点などを検証しています。これまでに食物アレルギーや熱中症、頭部外傷などのシミュレーション教育プログラムを考案してきました。今後は遠隔授業の開発を企画しています。

②「Elderly Sitter Program の開発による地域子育て支援拠点の構築」

少子高齢化が進む中、地域子育て支援の資源として祖父母世代の活躍に期待し、地域の孫育てプログラムとして ESP : Elderly Sitter Program の開発を目指します。プログラム修了者の活躍の場としての地域子育て支援拠点を構築し、その効果を検証していきます。

③「ライフスキルを育む性教育の実践」

子どもにとって、自分自身を大切に、人生において責任のある選択をするための知識やスキルを学ぶ、生きるための性（＝生）教育が求められています。学校における性教育の質を向上させるため、ライフスキルの習得を目指した包括的性教育の実践を行います。

社会活動（学外委員等）

東海学校保健学会 監事（平成 31 年～現在）／東海保育保健研究会 理事（令和元年～現在）／日本健康相談活動学会学会誌編集委員（令和 3 年～現在）／日本学校救急看護学会 評議員（令和 4 年～現在）／社会福祉法人 鈴生会 理事（令和 5 年～現在）

講演活動実績

福井県立大野高等学校 性教育講座「今、知っておきたい性と生」（令和 5 年 2 月）／東紀州くろしお学園保健研修会「緊急時の対応～てんかん・食物アレルギー・喘息・誤嚥～」(令和 5 年 4 月)／津市立久居西中学校 思春期ライフプラン教育事業「人生を豊かにする性のおはなし」(令和 5 年 7 月) 三重県私立三重県私立幼稚園・認定こども園協会 新規採用教員研修会「保育の場における健康と安全」(令和 5 年 8 月)／三重県立昂学園高等学校 性教育講話「自分の身体を大切に、性に責任を持とう」(令和 5 年 10 月)／三重県立四日市四郷高等学校 性教育出前講座(令和 5 年 12 月)／三重県私立幼稚園・認定こども園協会 津地区ブロック研修「保育現場における子どもの安全を守るための最新知識 2023」(令和 5 年 12 月)／三重県養護教諭連絡協議会研修会「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」(令和 5 年 12 月)

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	片山 靖富		
専 門 分 野	応用健康科学／健康教育学／公衆衛生学		
所 属 学 会	アメリカスポーツ医学会／東海体育学会／日本運動疫学会／日本運動生理学会／日本介護予防・健康づくり学会／日本教育医学会／日本健康支援学会／日本公衆衛生学会／日本体育・スポーツ健康学会／日本体力医学会／日本肥満学会／臨床運動療法学会		
キーワード	健康づくり・食育	芸術・スポーツ	学校教育

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）	
健康づくり支援／健康教育／スポーツ振興活動	健康づくり支援（食習慣改善、運動習慣の定着・身体活動増進、体力づくり、など）プログラムの作成や事業提案／コンサルティング、教室の運営、指導・教育
調査・研究開発支援／人材育成	健康づくり支援事業や健康関連・開発商品等の効果検証、支援事業を担う人材の養成

連携事業等へのアピールポイント
運動習慣がない者やこれまでに（学校体育授業以外での）スポーツが未経験の者を対象とした運動実践教室、肥満・血圧・血糖高値などを有する者を対象とした食事改善による減量教室などといった健康支援教室を、研究活動・学生教育・（研究成果の）地域還元を兼ねて開催してきました。健康づくり支援（食習慣改善、運動習慣の定着・身体活動増進、体力づくり、など）事業の提案や健康づくり支援プログラムの作成といったコンサルティングや人材育成、運営をお手伝いできると思います。

主な研究課題と今後の展開
減量教室の指導回数や期間と効果との関係：汎用性のあるプログラム開発を目指して（平成 24 年度科学研究費：若手研究 B） 【概要】指導回数、指導期間、指導時間数、指導形態（個人 vs 集団）と効果との関係について検証し、指導条件を充実させても、最終的な効果量は大きい、充実度に比例して効果が現れるものではなく、徐々に効果量は小さくなる（効率が悪くなる）ことを明らかにした。
減量プログラムの経済的評価：選択できる減量プログラムの提案を目指して（平成 27 年度科学研究費：若手研究 B） 【概要】指導回数、指導期間、指導時間数、指導形態など指導条件を充実させていくほどコストがかかる。効果（体重減少量）だけでなく、費用対効果からも減量プログラムを評価する必要性を問うた研究。
運動習慣の定着ならびに身体活動量の増加を促すプログラムの開発 【概要】どのような運動指導・運動実践の支援をおこなえば運動習慣が定着するか、身体活動量が増加するかを検証している。また、地域のスポーツイベントが運動を始めるきっかけや運動習慣の維持に貢献しているかを検証している。
学校体育授業・体育教育の効果検証 【概要】学校体育授業や体育教育の効果を授業直後の調査だけでなく、数年後に調査し、残存効果（教育効果とは本来永続的なものであるべきことから）を明らかにし、学校体育授業・体育教育を評価する研究。

社会活動（学外委員等）
NPO 法人大学拠点ヘルシーライフ研究機構：副理事（平成 25 年～） 日本体力医学会：評議員（平成 26 年～）、第 76 回日本体力医学会大会事務局長（令和元年～令和 3 年） 日本健康支援学会：評議員（平成 31 年～）、学会事務局長（令和 2 年～）、総務委員長（令和 5 年～）、第 25 回年次学術大会 事務局長（令和 6 年） 伊勢市民健康会議：委員（平成 31 年～） 日本教育医学会：評議員（令和 3 年～）

講演活動実績
三重県玉城町栄養講座・食改フォローアップ研修など（令和元年、令和 3 年、令和 4 年、令和 5 年） 日本特殊陶業伊勢工場（平成 30 年、令和元年） 三重県安全就業推進大会（令和 3 年） 津市特定保健指導研修会（令和 5 年） 三重県栄養士会定時総会 講演会（令和 5 年）

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	佐藤 武尊		
専 門 分 野	柔道、運動学（運動方法学）		
所 属 学 会	日本武道学会、日本体育学会、教育医学会、		
キーワード	芸術・スポーツ	幼児教育・保育・子育て支援	健康づくり・食育

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

柔道	小学生・中学生・高校生・大学生・社会人・諸外国を対象とした柔道の普及振興活動
子どもスポーツ	運動が苦手な子どもに身体を動かす楽しさや基礎的な運動能力を高める指導

連携事業等へのアピールポイント

平成30年から、コーチング学研究室では、地域貢献型活動の「はなまる学舎」を展開しております（※令和5年度現在はコロナの影響もあり休止中）。この活動の趣旨は、『先生』を目指す学生を地域の皆さんで育てませんか？というスローガンのもと、様々なスポーツ活動と学習活動を通じた地域の子供達との触れ合いの中で、地域の方々と一緒になって学生教育を行い、学生および地域の子供達と相互に成長する事を目指すというものです。その内容は、お子さんの宿題を大学生と一緒に考えたり、運動の基礎的な能力を高める・構築するために考案された「運動あそび」などを中心に行っています。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

【題目】大学柔道選手における健康状態に関する研究

【研究概要】柔道は、1961年に体重別階級制度が採用されたことにより多くの恩恵がもたらされた。その一方で、選手の多くは試合に向けた減量や増量を余儀なくされ、その事が柔道選手の健康にどのような影響（弊害）を与えているかの検討をしている研究はあまりみられない。特に、学生柔道選手を対象に検討した研究は見当たらない。

一方、力士の世界は一般社会人とは異なる食生活、高度の肥満、勝負の世界に生きるストレスなど、種々の因子が重なり合っており、やがては糖尿病に発展しやすい環境であると言われている。現役時代すでに、顕性糖尿病になっているものも少数みられるが、糖尿病の前駆状態、あるいは潜在性糖尿病のものもかなり存在するとのことである。力士は長年にわたり過剰なカロリーを摂取して過度に肥満し、引退後は規則的な稽古を行わず、またその他の肉体的運動にしても急速に少なくなったにもかかわらず、なお従前の高カロリーの食事を習慣的にとり、ひきつづき肥満状態にあるものが少なくない。実際、とくに年寄りには糖尿病のために治療を受けているものがぎわめて多いとされている。この事は、階級制度が設けられている柔道においても決して他人事ではない。なぜなら、階級制が敷かれている為に行われている、過度な減量および増量が繰り返されているからである。減量後の開放感から暴飲暴食に走る傾向にある軽量級もいれば、日頃から体重を増量しなくてはならない使命感で「ドカ食い」を続ける重量級は、生活習慣病の一つである「糖尿病」を誘発する可能性があると考えている。

本研究では、学生柔道選手の健康状態、特に生活習慣病である糖尿病に着目して、その実態を明らかにすることを目的とする。

社会活動（学外委員等）

公益財団法人 日本オリンピック委員会 強化委員
公益財団法人 全日本柔道連盟強化委員会科学研究部
東海学生柔道連盟 理事長
公益財団法人 全日本柔道連盟公認柔道指導者資格A指導員
公益財団法人 全日本柔道連盟公認Aライセンス審判員
三重県柔道協会 強化委員（国民体育大会成年男子監督）
三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会委員
三重県柔道協会 審判委員会審判委員
日本体育協会 公認スポーツ指導者公認柔道コーチ
日本傳講道館柔道 六段

講演活動実績

令和元年 ホノルル柔道連盟柔道クリニック講師（ハワイ州）
令和元年 第2回柔道インテリジェンスフォーラム演者（東京都） など

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	澤 友美		
専 門 分 野	理科教育学／昆虫生理学		
所 属 学 会	日本生物教育学会／日本応用動物昆虫学会／アジア生物教育協議会 (Asian Association for Biology Education)		
キーワード	学校教育	環境・地理	数理・統計

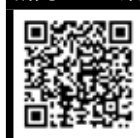
連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

理科教育学 (生物・昆虫)	保育所、幼稚園、小学校理科、中学校理科、高等学校生物における昆虫を用いた教材の提供
環境教育学	環境教育

連携事業等へのアピールポイント

理科教育分野では保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校において昆虫を用いた教材の開発と出前授業、環境教育分野では昆虫を用いた生態系の展示や説明を行っています。このような分野で共同研究や地域に貢献することができればと思います。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

保育所、幼稚園、小学校1年生、3年生、6年生、高等学校における昆虫を用いた出前授業の現場の先生方との共同実践を行い、現場の先生方が授業で実践可能な体系を構築することを目的としています。

また、小学校2年生、4年生、5年生、中学校における新たな教材の開発、高等学校「生物基礎」の食作用の観察に使用する体液の保存方法と供試方法の検討や、昆虫の免疫を利用した新たな教材の開発に取り組んでいます。

社会活動（学外委員等）

特になし

講演活動実績

みえむ未来創成フォーラム シンポジウム（令和元年10月）
日本生物教育学会第106回全国大会 シンポジウム（令和4年1月）
第12回東海昆虫研究会 招待講演（令和4年12月）

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	高橋 摩衣子		
専 門 分 野	音楽教育		
所 属 学 会	日本音楽教育学会／東洋音楽学会／日本ポピュラー音楽学会／日本保育学会		
キーワード	学校教育	芸術・スポーツ	幼児教育・保育・子育て支援

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

音楽教育	あそび歌やピアノ演奏の指導、小学校教育や幼児教育における音楽活動の方法
教材制作	教材の企画立案、監修、音源制作、楽譜浄書
ワールドミュージック	世界の様々な国の音楽の紹介

連携事業等へのアピールポイント

音楽を通して、学校や園が生き活きする、親子の絆が深まる、毎日の生活が楽しくなる、そのようなお手伝いができれば幸いです。

主な研究課題と今後の展開

題目：学校音楽教育・幼児音楽教育の現状および時代に即した教員・保育者養成に関する研究。
コードネームを活用したピアノ伴奏技術の学習方法や、舞台制作を通じた教員・保育者としての資質向上について研究しています。インターネット上で公開される音源や映像資料が増えてきたため、今後はそれらをどのように教育・保育に活用できるかについても研究したいと考えています。

社会活動（学外委員等）

伊勢市教育研究所令和2年度教育研究プロジェクト〔今日的課題に係る実践研究〕助言者

講演活動実績

平成30年度～令和3年度 三重県教員免許更新講習講師「幼児教育におけるピアノ伴奏」
令和4年7月 夢ナビ講義「コードネームを活用して子どもの歌を伴奏しよう」
令和4年9月 皇學館大学月例文化講座「小泉文夫の音楽教育論から読み解く、教材としてのわらべうたの役割」
令和5年11月 四日市市幼児教育センター「子どもも保育者もワクワクするリズム遊び」

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	土谷 長子		
専 門 分 野	乳幼児教育学／保育学／子育て支援		
所 属 学 会	日本保育学会／日本乳幼児教育学会／日本赤ちゃん学会		
キーワード	幼児教育・保育・子育て支援		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

保育・幼児教育	保育内容指導法・子育て支援
福祉分野	専門職キャリアアップ

連携事業等へのアピールポイント

人生の最初期の子どもたちが健やかに育つためのお手伝いできればと考えています。子どもたちを取りまく社会や子育て環境について、地域の方たちと共に考えていける機会を持つことができれば幸いです。

主な研究課題と今後の展開

子どもの発達と保育内容についての研究が中心です。子どもが主体的に活動できる保育の環境を考えたり、子どもの発達に応じた保育内容の検討を保育現場と協同しながら、研究を進めていきたいと考えています。発達上、少しゆっくりだったりするような子どもたちについても、現場と一緒に考えていけるように研究に取り組んでいます。また、現時点での社会情勢から、これらの状況が子どもの発達にどのような影響を与えるのかについても関心があります。引き続き、これらの研究を続けていきたいと考えています。

社会活動（学外委員等）

明石市子ども養育支援ネットワーク連絡会議委員（平成 25 年～）／社会福祉法人イエス団兵庫ブロック苦情解決第三者委員（平成 26 年～）／社会福祉法人友愛福祉会監事（平成 27 年～）／学校法人イエス団評議員（平成 27 年～）／社会福祉法人ひしの美会評議員（平成 29 年～）／社会福祉法人城見ヶ丘保育園評議員（平成 29 年～）／学校法人マリア学園曉の星こども園外部評価委員（令和元年～）／明和町男女共同参画推進委員会会長（令和元年～）／兵庫県社会福祉士会監事（令和 2 年～）／大台町保育園等職員研修アドバイザー（令和 3 年）／三重県幼児教育アドバイザー（令和 5 年～）／三重県子ども・子育て会議委員（令和 5 年～）／神戸市いじめ問題審議委員会委員（令和 5 年～）

講演活動実績

特記事項なし

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	野々垣 明子		
専 門 分 野	教育哲学、社会教育史		
所 属 学 会	日本教育学会／教育哲学会／教育史学会／日本社会教育学会／教育思想史学会		
キーワード	学校教育	社会教育・生涯学習	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

社会教育史、成人教育史	三重県における教育史研究
-------------	--------------

連携事業等へのアピールポイント

これまで社会教育や成人教育の歴史について研究してきました。地域社会に生きる人びとが、どのように地域における教育を創造してきたのかその歴史をたどることを目指してきました。昨年より、三重県の昭和 20 年代における社会教育の施策に関しても関心を寄せています。教育の歴史に関することで、地域に貢献できればと思います。

主な研究課題と今後の展開

- ・ 題目 昭和 20 年代の三重県の社会教育の研究
- ・ 概要 昭和 20 年代の三重県の各地域において、民主主義の技術の普及を目指して取り組まれていた講習会に焦点をあて、資料を収集・分析し、その実態をとらえる。
- ・ 当時の貴重な資料の発掘、保存につとめ、三重県の教育の歩みを明らかにしていきたいと考えています。

社会活動（学外委員等）

高等教育コンソーシアムみえ 産学官金連携協議会 副委員長（令和 5 年 8 月～現在に至る）
三重県立上野高等学校探究人材育成コンソーシアムみえ 委員（令和 5 年 4 月～現在に至る）

講演活動実績

リカレント教育プラットフォームみえ主催セミナー「リカレント教育の「いま」と「これから」教育機関報告（令和 5 年 12 月 8 日）

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	萩原 浩司		
専 門 分 野	社会科教育学 エネルギー教育		
所 属 学 会	日本社会科教育学会／全国社会科教育学会／日本グローバル教育学会／日本エネルギー環境教育学会／日本生活科・総合的学習教育学会／中部教育学会		
キーワード	学校教育	環境・地理	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

--	--

連携事業等へのアピールポイント

学校現場の実践に即した社会科教育に関する内容・方法について先生方と考えていくことができればと思います。また、世界的な課題として注目されている「地球温暖化」、「脱炭素社会」、「カーボンニュートラル」「SDGs」などについて、社会科におけるエネルギー環境教育の視点から研究してきました。そのような分野において、地域の方々と共に考える機会を持つことができれば幸いです。

主な研究課題と今後の展開

テーマ「脱炭素社会に向けたエネルギー環境教育における教材研究・指導のポイント」

概要：現在、エネルギー需要は増大するばかりで、世界的にエネルギー資源の安定確保が難しくなっています。また、エネルギーの大量消費がもたらす温暖化などの環境問題も深刻化しており、早急な対応が求められています。このような状況の中で世界的に「脱炭素化」が目指されています。しかし、現状では脱炭素化への取り組みは順調とはいえません。なぜなら、脱炭素化の必要性の認識は世界的に広がっていますが、どのように脱炭素化を進めるのかといった方法について合意形成がなされていないからです。エネルギー環境教育では、このような現状における課題について、話し合うことを通して、持続可能な社会の形成を目指していきます。脱炭素化に対する認識は、地域や国、その人が置かれている状況によって変わります。他者の立場を理解することを通じて問題解決を図る資質の育成が重要になってきます。

今年度の取り組みのポイント：小学校社会科における授業づくりを中心に取り組んでいます。

社会活動（学外委員等）

伊勢市廃棄物減量等推進審議会会長
日本グローバル教育学会理事

講演活動実績

エネルギー環境教育関西ワークショップ「社会科歴史学習におけるエネルギー教育」（令和元年）
エネルギー環境教育シンポジウム「地球温暖化問題とエネルギー問題の視点を小学校社会科の授業でどのように扱うか」（令和4年）

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	山本 智子		
専 門 分 野	授業研究 (指導法), 教育カウンセリング (教育相談)・子育て支援		
所 属 学 会	日本教育カウンセリング学会, 日本学校心理学会, 日本発達障害学会など		
キーワード	学校教育	特別支援教育	幼児教育・保育・子育て支援

連携分野 (研究活動等の応用可能な分野と用途)

授業研究 (指導法)	学級経営や授業
教育カウンセリング (教育相談)	生徒指導や個別の支援における望ましい対応, 地域における支援課題へのサポート, 福祉 (高齢者など) 分野にも対応。
子育て支援	家族や地域の課題

連携事業等へのアピールポイント

名張市と連携し, 地域の子どもの活動「ばりっ子会議」のサポートを行っています。学生が, 地域の実情を理解し, 子どもたちの想いを形にする活動を通して, 大学と自治体が双方向に刺激し合い, 連携する価値を実感しています。共に望ましい関係性を築き, どの人も地域でハッピーに生きることができるよう連携できれば幸いです。

主な研究課題と今後の展開

- ・子どもの育ちを理解し, 発達を支援する研究
子どもは, 胎児期から外界を捉え, 誕生後も環境との相互作用の中で育っていることが, 明らかにされてきました。また, 子ども理解に, 身体的な視点を持つことで, 子どもの認識をより深く理解することができることも指摘されています。子どもにかかわる大人のあり方や具体的な方法について研鑽しています。

社会活動 (学外委員等)

- ・三重県発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業 (発達障害に関する通級による指導担当教員等専門性充実事業) 委員 (令和元年5月～現在に至る)
- ・三重県名張市子どもの権利救済委員会委員 (平成29年8月～現在に至る)
- ・奈良県立大淀養護学校評議員 (平成29年4月～現在に至る)
- ・奈良県宇陀市保育の質の向上研修事業 (特別支援教育) 講師 (令和3年4月～現在に至る)
- ・三重県伊勢市男女共同参画審議会委員 (会長) (令和3年6月～現在に至る)
- ・大阪府立箕面支援学校学校運営協議会委員 (会長) (平成30年4月～現在に至る)
- ・NPO法人まーぶる (重症心身障害者介護事業) 副理事長 (平成25年4月～現在に至る) など

講演活動実績

- ・三重県教育委員会による通級指導に関わる研修において, 支援の在り方や脳や身体へのアプローチについて講演。
- ・京都府による子育て支援員, 放課後児童支援員研修において, 障害のある子どもや配慮の必要な子ども理解, 保護者への対応や支援のありかたについて講演。
- ・特別支援学校や保育園, 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校において, 幼児児童生徒の理解と対応, 校内支援体制づくり・保育や授業のあり方などについて講演。

所 属	教育学部 教育学科 准教授		
氏 名	吉田 明弘		
専 門 分 野	児童福祉・保育		
所 属 学 会	日本社会福祉学会、社会政策学会、日本保育学会、ロバート・オウエン協会		
キーワード	幼児教育・保育・子育て支援		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

児童福祉 社会的養護	児童福祉の課題やあり方についての提言 社会的養護の課題やあり方についての提言
---------------	---

連携事業等へのアピールポイント

児童福祉施設や少年院を退所（退院）した子どもの就労支援が研究テーマの一つです。その成果をいかし、彼らの雇用の機会を生み出すため、児童福祉施設・少年院などと企業間の「橋渡し」ができればと考えています。

主な研究課題と今後の展開

「児童福祉施設や少年院を退所（退院）した子どもに対する就労支援」

児童福祉施設や少年院を退所（退院）した子どもが、就労の機会を得る上での困難について明らかにすると同時に、雇用を促進するための具体的な方策について研究している。

とくに、対象者を実際に雇用している企業を取りあげることを通して、採用上の課題や雇用の条件、さらには企業の理念や社会的役割にかんして整理を試み、対象者の雇用を検討する企業の後押しをしたい。

その一環として、「現代のロバート・オウエン賞」を主宰し、毎年優れた取り組みを行っている企業の顕彰を行っている。その成果は、朝日新聞などでも紹介された。

社会活動（学外委員等）

公益財団法人関西消費者協会理事
三重県子どもの貧困対策及びひとり親家庭等支援懇話会委員長
三重県社会的養育推進計画策定検討会議委員
みえの学力向上県民運動推進会議委員
三重県いじめ調査委員会副委員長
三重県子どもの貧困対策計画策定委員会委員
三重県家庭的養護推進計画策定検討会委員
三重県社会的養護のあり方検討会委員
三重県児童相談センター里親委託推進委員会委員長
社会福祉法人サンフラワー名張理事

講演活動実績

三重県民生委員児童委員協議会／三重県児童養護施設協会／松阪市社会福祉協議会／三重県子ども・福祉部／
大阪府子ども食堂サミット in 大阪
その他多数

現代日本社会学部

現代日本社会学科

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 教授		
氏 名	鵜沼 憲晴		
専 門 分 野	社会福祉法制 権利擁護		
所 属 学 会	日本社会福祉学会 日本地域福祉学会 社会事業史学会		
キーワード	福祉・高齢者・人口減少		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

権利擁護に関する 事柄	日常生活自立支援事業の支援員や市民後見人の養成等
----------------	--------------------------

連携事業等へのアピールポイント

日常生活自立支援事業の支援員や市民後見人の養成・研修の企画等をお手伝いできます。
成年後見制度利用促進に関連する研修・講演等をお手伝いできます。

主な研究課題と今後の展開

- ・ 題目：成年後見制度の普及、意思決定支援の推進
- ・ 概要：成年後見制度の啓発、後見主体の確保、意思決定支援の推進に向けた課題を探索
- ・ 到達目標：後見支援員システムの推進、公的後見事業（後見業務に対する公的支援）の実現
- ・ 背景：認知症等により、財産管理や医療・福祉サービスの契約が自分でできない方が増えています。そうした方々へのサポートが成年後見です。しかし、後見人の不足によりこの制度がうまく機能していない現状があります。今後、団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になっていくにつれ、成年後見ニーズはさらに高まると予想されています。どうすれば成年後見を推進できるかについて考えています。

社会活動（学外委員等）

三重県 社会福祉審議会・委員
玉城町 権利擁護推進委員会・委員長
三重県社会福祉協議会 運営適正化委員会・委員長
伊勢市社会福祉協議会 法人理事
名張市社会福祉協議会 法人後見受任委員会・委員

講演活動実績

明石市社会福祉協議会 市民後見人養成講座・講師
名張市社会福祉協議会 後見支援員継続研修・講師

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 教授		
氏 名	笠原 正嗣		
専 門 分 野	産業社会学／福祉交通論		
所 属 学 会	日本社会学会／日本社会福祉学会／経済社会学会／組織学会		
キーワード	産業・観光	地域づくり	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

公共交通	超高齢社会における移動保障の中心施策としての重要度を検証
交通バリアフリー	すべての人に優しい交通手段の実現方策を探索
地域振興	交通と観光がもたらす交流人口増加と地域産業発展との相乗効果を検討

連携事業等へのアピールポイント

移動の自由の保障（移動権）は、基本的人権ともいえる重要なものです。クルマ社会となり公共交通網は大きく衰退し、商店街のシャッター化が進み、施設の郊外立地が進んでいます。クルマを運転できない高齢者や障害者等の生活基盤は脅かされ、「買物難民」という言葉が一般化してしまいました。超高齢化が進む現代日本社会において、環境や交通安全問題をも踏まえた「新しいクルマ社会」のあり方を再考すべき時期にきています。つまり公共交通の意義を改めて考える必要があるのです。「人にやさしい移動」について皆様と考える機会を持つことができれば幸いです。

主な研究課題と今後の展開

「高齢者等の社会的弱者の移動環境整備の重要性」について研究を行います。人口減少や高齢化による活力低下と公共交通網の衰退化による「交通空白地」に苦しみ地方都市の交通課題を、クロスセクター・ベネフィット（総合的社会便益）の視点から考察します。「買い物難民」や「医療難民」の解消に向けた地域住民への移動保障実現の観点だけでなく、新たな顧客層開拓による観光促進にもつながる交通バリアフリー推進の必要性に注目していきます。さらに免許返納で注目される高齢ドライバーへの対応についても、地域交通問題として総合的に考えていきたいと考えます。

地域活性化に寄与する「人に優しい地域交通モデル」を構築できればと思います。

社会活動（学外委員等）

伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会会長（令和元年6月～現在に至る）
三重県みえの働き方改革推進企業選考委員長（令和元年11月～現在に至る）
伊勢市都市計画審議会委員（令和2年6月～現在に至る）
三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会会長（令和3年7月～現在に至る）
松阪市ワークセンター松阪運営事業予定者募集に伴う審査選定委員会委員（令和4年5月～令和5年3月）
三重県地方自治研究センター「公共交通の利用促進に関する研究会」座長（令和5年7月～現在に至る）

講演活動実績

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 教授		
氏 名	関根 薫		
専 門 分 野	家族社会学		
所 属 学 会	日本社会学会／日本社会福祉学会		
キーワード	福祉・高齢者・人口減少		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

家族社会学	成年後見制度 等
-------	----------

連携事業等へのアピールポイント

家族社会学、ならびに社会調査関連の知識提供が可能。

主な研究課題と今後の展開

- ①老人クラブの「支え合い活動」に関する研究
「老人クラブの活動実態に関するアンケート」のデータを用いて、単位老人クラブで実施されている「支え合い活動」の地域差および連携の類型化を試みる。
- ②社会福祉協議会における法人後見についての研究
「社会福祉協議会における法人後見に関する調査」のデータを用いて、現状分析を実施する。

社会活動（学外委員等）

三重県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 運営協議会委員（平成 30 年 4 月～現在に至る）
伊勢市行政改革推進委員会委員（令和 4 年 4 月～現在に至る）

講演活動実績

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 特命教授		
氏 名	千田 良仁		
専 門 分 野	農林漁業経済学／開発経済学／地域活性化論／地域イノベーション論		
所 属 学 会	日本水産学会／国際漁業学会／地域活性学会／地域イノベーション学会		
キーワード	地域づくり	産業・観光	施策立案

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

産学官連携	地域資源を活用した地域ビジネスの創出。皇學館大学・明和町産学官連携日本酒プロジェクト、三重地方創生コンソーシアムの運営。一般社団法人明和観光商社 代表理事
地域社会活動	地方創生に関する講演活動、地方創生に関するアドバイザー。一般社団法人村楽 代表理事
文化振興活動	日本文化の理解促進。一般社団法人神都の祈り 理事

連携事業等へのアピールポイント

地域で問題となっている諸問題も見方を変えれば、地域資源と捉えることが出来ます。そして地域の持続的な発展のためには、地域の暮らしや生業と地域資源との関係を改善していくことを同時的かつ補完的に行うことが必要です。コーディネーターは地域活性化を進める「触媒」であり、実際に活躍していく地域活性化のプレイヤーは地域の人達です。「余所者」、「馬鹿者」、「若者」が地域を変えるとよく言われますが、コーディネーターとして、これらの3者と地域の人がうまく連携し、活躍する場を整えるためには、時間がかかっても、はじめにどういう地域にしていきたいかというビジョンを地域の方々と共有することが重要だと考えます。

主な研究課題と今後の展開

地方創生における戦略策定と地域イノベーション／自治体と連携した地方創生総合戦略作成の支援や、持続可能な観光地域づくり、SDGsによるまちづくりなど地域のイノベーションの仕組みについて研究を行っています。
地域コミュニティにおける共有空間の創造／地域住民が自発的、自律的にコミュニティを作り活動を活性化するための「共有空間」という場づくりの実践的研究を行っています。
農林水産業の経営イノベーションと地域活性化／スマート農林漁業の現場への浸透とそれに伴う農林水産業経営のイノベーション、地域活性化の効果に関する実証研究を行っています。

社会活動（学外委員等）

三重県明和町地方創生アドバイザー（平成29年4月～現在に至る）
岩手県久慈市地方創生アドバイザー（平成27年4月～現在に至る）
島根県吉賀町地方創生アドバイザー（令和元年4月～現在に至る）
三重県海区漁業調整委員（令和3年4月～現在に至る）

講演活動実績

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 教授		
氏 名	筒井 琢磨		
専 門 分 野	地域社会学		
所 属 学 会	関西社会学会／日本社会学会／日本保健医療社会学会／地域社会学会		
キーワード	地域づくり		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

まちづくり・商店街活性化	伊勢市厚生地区まちづくりの会事業への協力
--------------	----------------------

連携事業等へのアピールポイント

学部教育（正課、課外）に反映できる形で、地域社会の各組織（住民団体、NPO、商店街等）の事業に参加し、協力をしてきた。地域社会で活躍したい学生と、若い活力を求める地域社会とを大学がいかに結びつけるかについて、大学の研究教育体制と関連づけて積極的に学内外で議論する場が必要に感じる。

主な研究課題と今後の展開

日本各地で行われている高校生 SBP（ソーシャルビジネスプロジェクト）活動による地域連携取組を大学としてどのように支援していくか。本学で開催されている「全国高校生 SBP 交流フェア」の発展と、年間を通じた学生活動のリンクを図っていく。

社会活動（学外委員等）

伊勢市空家等対策協議会委員（平成 28 年 11 月 28 日～現在に至る）
伊勢市情報公開・個人情報保護審査会委員（平成 29 年 4 月 1 日～現在に至る）
伊勢市路上喫煙対策審議会委員（令和元年 5 月～現在に至る）

講演活動実績

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 教授		
氏 名	富永 健		
専 門 分 野	憲法学		
所 属 学 会	憲法学会／日本公法学会／日本法政学会／比較憲法学会／関西法政治研究会		
キーワード	その他		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

	憲法問題の解説、選挙啓発
--	--------------

連携事業等へのアピールポイント

- ・憲法問題（人権、安全保障、憲法改正など）の理解を深めて主権者教育に寄与します。
- ・選挙の意義や選挙制度の解説を通して選挙啓発に協力します。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

- 題目 ①国体法の研究
②憲法改正論の研究
- 概要 ①国体と憲法との関係、特に現行憲法成立による国体の変革に関する研究を進める
②日本国憲法の問題点を考察し、現在の憲法改正論を検討する

社会活動（学外委員等）

憲法学会理事（平成 14 年 10 月～現在に至る）
伊勢市情報公開審査会委員（令和 5 年 4 月～現在に至る）
三重県選挙管理委員会委員（平成 29 年 5 月～現在に至る）
津市情報公開・個人情報保護審査会委員（令和 4 年 1 月～現在に至る）
伊勢市人権施策審議会委員（令和 5 年 6 月～現在に至る）

講演活動実績

東海地区中堅神職研修会（令和元年）
白ばらの集い研修会（伊勢市選挙管理委員会・伊勢市明るい選挙推進協議会，令和 5 年 12 月）

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 教授		
氏 名	中野 一茂		
専 門 分 野	ソーシャルワーク		
所 属 学 会	社会福祉学会 総合人間科学研究学会		
キーワード	国際理解・外国語	防災・減災	その他

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

Military Social Work	安全保障
ソーシャルワーク	人間の安全保障

連携事業等へのアピールポイント

人間の安全保障を中心とした安全保障の政策立案及び社会福祉の視点から地域の課題解決、スクールソーシャルワークの視点から教育現場の課題解決についても対応可能。

主な研究課題と今後の展開

「国内外の災害・安全保障情勢の影響を受ける自衛隊で活動する自衛官に対し、その固有の職業文化を有する職業環境との相互作用を考慮したソーシャルワークを基盤とし、自死につながる生活課題及び日常生活におけるレジリエンス強化を狙いとした、ソーシャルワークモデルの開発とその効果的な展開に資するための専門職養成プログラム開発を目的」とする。

① 国際共同研究の成果を援用した、MiISW のグローバルスタンダードモデルを柱とした、自衛官の業務・生活環境の理解に基づく、生活課題解決を目的としたソーシャルワークモデルの体系化。

社会活動（学外委員等）

総合人間科学研究学会 事務局長 編集委員会委員長

講演活動実績

特になし。

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 特別教授		
氏 名	新田 均		
専 門 分 野	政治制度／政教関係…政治文化評論／皇室制度／近代神道／教育問題		
所 属 学 会	比較憲法学会／憲法学会／日本宗教学会／神道史学会／神道宗教学会		
キーワード	道德教育	歴史・文化	施策立案

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

皇室の社会事業	内外の研究者と連携し近代の皇室や宗教団体における社会事業の研究
地域の情報発信	大学生テレビ局を通じた意義ある地域情報の発信
文化・スポーツ振興	大学のスポーツ資源を活かした地域振興

連携事業等へのアピールポイント

地域と連携した事業を通じて、地域人材としての学生の成長と地域の活性化を目指しています。

主な研究課題と今後の展開

- ①.皇室福祉研究会の活動を通じて、近代における皇室の社会事業における役割を明らかにする。資料とデータの収集に努める。
- ②.大学生テレビ局の活動を通じて、地域の活性化に貢献する。受託事業の各自な獲得に努める。
- ③.大学のもつスポーツや文化の資源を地域の活性化につなげる。クラブの学生と地域との新たな繋がりを構築する。
- ④.伊勢麻振興協会の活動を通じて、大麻を中心とした日本の伝統素材生産の維持と発展に貢献する。大麻繊維の県内生産を安定化し、神社の授与品の地域への供給を促進する。
- ⑤.道德教育プロジェクトの活動を通じて、生徒指導、道德教育、特別活動の連携を深め、高大接続をも念頭において、生徒、学生、教員の育成に貢献する。学内の教員育成組織との連携を深める。
- ⑥.多様な留学生を受け入れて、世界への日本文化の発信に貢献する。

社会活動（学外委員等）

伊勢麻振興協会理事（平成 28 年 5 月～現在に至る）／神道政治連盟政策委員（～現在に至る）／宗教学会理事（平成 23 年 11 月～現在に至る）／明治聖徳記念学会評議員兼企画編集委員（平成 13 年 10 月～現在に至る）／神社本庁教学委員（平成 10 年 7 月～現在に至る）／政教関係を正す会幹事（平成 13 年 9 月～現在に至る）／憲法学会理事（令和 2 年 11 月～現在に至る）

講演活動実績

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 准教授		
氏 名	岩崎 正彌		
専 門 分 野	伝統建築・伝統工芸・伝統芸能		
所 属 学 会	茶の湯文化学会（理事）／（以下は学内学会） 現代日本学会		
キーワード	歴史・文化	芸術・スポーツ	産業・観光

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

伝統文化	景観・建築・工芸・芸能・芸道・教育など	やまとだまし
伝統産業	陶芸・染織・漆器・木工・金工・和紙など	ものづくり
伝統観光	旅館・ホテル・料理・菓子・接遇・迎賓など	おもてなし

連携事業等へのアピールポイント

日本の伝統文化の全般について、調査・研究・教育をいたしております。東京生まれ→京都→伊勢に14年となります。担当している授業は「伝統建築論」「伝統工芸論」「伝統芸能論」「日本礼法論」などです。

日本の伝統文化教育の再興をめざしております。建築設計事務所出身、博物館、迎賓館などを手掛けてきました。一級建築士、博物館学芸員資格を持ち、構想力、企画力、統合力を有し、展示、映像、シンポジウムなども手掛けます。

めざす心は、神国日本の大和の精神の復興です。大和心、武士道精神、大和魂が、再び輝くことを祈っております。

地域社会におきまして、地域の観光、おもてなし、産業、建築、工芸、芸能、茶道、華道など、伝統文化の発展、世界への発信に寄与させていただけましたならば、と存じます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

・一級建築士・博物館学芸員・英検2級・ITパスポート

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

日本の伝統文化 ～ その探求と継承、未来への創造と応用～

基礎：我が国の伝統文化の詳細と本質を学び、その精神的な根源を探究する。

応用：我が国の伝統文化の継承と発展のため、伝統文化教育の内容を構築する。

展開：我が国の伝統文化の未来への創造のため、具体的な方法論を開発し、実践する。

1. 「日本の伝統文化教育」の研究（継続中）
2. 「日本の伝統文化教育と英国の伝統文化教育」の研究（令和3年9月～令和4年8月、ロンドン大学・東洋アフリカ学院（SOAS）・日本研究所（JRC）へ派遣研究員として留学）
3. 「英国における日本の伝統文化」の研究（継続中）

社会活動（学外委員等）

- ・茶の湯文化学会・理事会（代表：矢野 環）理事（平成14年～現在）（東海例会に所属）
- ・野村美術館「茶書「隔冥記」輪読会」（代表：谷 晃（館長））会員（平成10年～現在）
- ・日本文化サロン（代表：小川榮太郎）アドバイザーボードメンバー（令和3年～現在）
- ・CLL「消防団の新たな役割発見プロジェクト」を担当（令和5年～現在）
- ・明和町・斎宮奉納新能への解説（日本語+英語）（令和6年2月2日）

講演活動実績

- ・教員免許状更新講習会（皇學館大学）最終日「日本の伝統と文化」（平成21年8月より、令和3年8月まで）
- ・最高峰の文化講座（日本文化継承者協会）「日本の伝統建築」「東京探訪」等（平成30年3月より、毎年初春に講演）
- ・日米CPAC JAPAN2020「伝統と徳性」（一般社団法人JCU）（令和2年12月5日にパネラーとして出講）
- ・日本政策学校：「文化政策論 ～今こそ日本の伝統文化を教育に～」（令和3年2月6日に遠隔方式で出講）
- ・文化と創造チャンネル『識ること、語ること』『伝統文化教育』（令和3年8月に収録。YouTubeで配信中）

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 准教授		
氏 名	瓜田 理子		
専 門 分 野	民族音楽学（宮中と神宮の神楽、北インド古典音楽） / 欧米における神道理解の研究 / 日本文化としての神道の海外発信		
所 属 学 会	日本歌謡学会 / 民族音楽学会 (Society for Ethnomusicology)		
キーワード	芸術・スポーツ	民俗学・神道	国際理解・外国語

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

特記事項なし	
--------	--

連携事業等へのアピールポイント

海外の研究者と神道、神楽、レジリエンスについての学術交流に取り組んでいます。またアメリカの大学で日本語教育に携わる先生と協同で、本学の学生と日本語と英語の会話相手のマッチングもしています。日本文化の英語発信や地域の国際交流に関連する連携事業にも取り組みたいです。

主な研究課題と今後の展開

科研：神楽秘曲の継承原理とレジリエンスについての基礎的研究 研究代表者 瓜田理子（令和5—9年度）
 科研の2年目の展開として、宮廷歌謡の奥秘であり、皇位継承儀礼と伊勢神宮式年遷宮という限られた祭祀で天照大御神に奉奏される神楽秘曲について、文献調査を中心に、平安時代に成立以後、歴史上幾多の危機に直面しながらもなぜ現代に至るまでに中断なく本義を損なうことなく奏楽されているのか調べます。そして、継続を支えてきたものを「レジリエンス」概念を参照しながら継承原理の抽出を試みます。
 これまで、海外に日本文化としての神道をレクチャーデモンストレーションで発信し、今年度はポーランドのワルシャワ大学に招聘され行う予定です。国内においても日本人を対象に行いたいです。

社会活動（学外委員等）

特記事項なし

講演活動実績

特記事項なし

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 准教授		
氏 名	榎本 悠孝		
専 門 分 野	障害者福祉／精神保健福祉／精神科ソーシャルワーク		
所 属 学 会	日本社会福祉学会／日本地域福祉学会／日本精神障害者リハビリテーション学会／日本保健医療社会学会		
キーワード	福祉・高齢者・人口減少	施策立案	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

障害者福祉政策	障害者福祉制度についての提言
福祉教育	高校等での精神障害についての啓発活動

連携事業等へのアピールポイント

私は、精神障害者の地域生活支援の在り方について研究しています。精神障害者の地域生活を促進するためには、ハード面である社会資源整備とともにソフト面である地域住民の精神障害者に対する理解が必要です。現在精神障害についての地域住民の理解は、うつ病をはじめとする病名についての認知は進んでいるものの、症状や具体的な日常生活上の課題などの理解は進んでいません。また、当事者と出会う機会が少ないことから、精神障害に対する差別的な先入観がある場合もあります。私が現在参加している協議会では、障害のある人たちの地域生活を支えるサービスや障害理解のためのプログラムを検討しています。

主な研究課題と今後の展開

「精神障害者のグループホームからの地域移行を促進する要因に関する研究」
自治体との合同調査からグループホーム利用者の退所意向等について把握し、退所促進要因について明確にする。
精神科病院に社会的入院をしている精神障害者の地域移行先として、グループホームが果たしてきた役割には非常に大きなものがあります。大規模施設や病院ではなく、地域のなかで世話人によるケアをはじめ、就労支援や生活支援のさまざまな社会資源を活用しながら、地域生活の継続が実現しています。しかしながら、十分に自立生活ができる入居者がグループホームにとどまり続けるといった問題もあり、グループホーム数の不足につながっています。三重県内の自治体をフィールドに病院からグループホームへ、またグループホームから地域への円滑な移行と地域定着を実現するために、具体的支援方法や支援システムのあり方について研究していきます。

社会活動（学外委員等）

伊賀圏域障がい福祉連絡協議会委員（平成 30 年 4 月～現在に至る）
名張市共生地域デザイン会議委員（平成 29 年 4 月～現在に至る）
みえメディカルバレー企画推進会議委員（平成 30 年 7 月～令和 3 年 3 月）
ウェルビーイングみえ 21 プラン策定委員（平成 31 年 1 月～令和 2 年 3 月）
亀山市地域自立支援協議会会長（平成 31 年 4 月～現在に至る）
三重の農福連携等推進ビジョン策定懇話会 委員（令和 2 年 2 月～令和 2 年 3 月）
伊勢市指定管理者選定委員会委員（令和 2 年 7 月～令和 2 年 11 月）
伊賀市障がい者地域自立支援協議会会長（令和 5 年 4 月～現在に至る）
玉城町いじめ問題調査委員（令和 5 年 4 月～現在に至る）

講演活動実績

伊勢市ひきこもりサポータースキルアップ研修（令和 5 年 2 月）
三重県司法書士会リーガルサポート三重支部研修（令和 5 年 10 月）
三重県介護介護支援専門協会松阪支部研修（令和 5 年 12 月）

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 准教授		
氏 名	大井 智香子		
専 門 分 野	地域福祉／ボランティア・市民活動マネジメント／過疎地振興／ファンドレイジング		
所 属 学 会	日本社会福祉学会／日本地域福祉学会／日本福祉教育・ボランティア学習学会／日本福祉文化学会		
キーワード	地域づくり	福祉・高齢者・人口減少	体験活動・ワークショップ

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

地域社会分野	過疎地域・居住環境困難地域での住民参画によるまちづくり支援 等
地域社会分野	伝統産業の再生と福祉的就労のダブルチャレンジを可能とする支援モデル開発 等

連携事業等へのアピールポイント

行政計画の策定、地域福祉活動の具体的な推進方法などのご相談をいただき、地域懇談会／タウンミーティングの開催・運営方法（ワークショップ）、住民活動のマネジメント、居住困難地域での生活支援など具体的にご提案・運営に携わっています。COVID-19の流行により令和元年までに策定した多くの計画は、前提条件を大きく変更せざるを得ない状況にあります。令和5年度も現状を踏まえて計画を見直し、推進方法について重点的に取り組みました。

各地で育まれてきた先人の智慧から学びつつ、それぞれの風土に根ざした福祉のあり方、住民によるまちづくりについて一緒に考えていきたいと願い、研究と実践を重ねています。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

科学研究費助成事業 基盤研究（C）「人口流動化する産業衰退地域の再生と生活困難者の地域就労を結ぶ支援モデルの開発研究」（平成30～令和5年度）に取り組んでいます。COVID-19の流行により研究計画の大幅な見直しを余儀なくされておりますが、感染症の急激な流行は、生活困難状況を一層深刻なものとしています。現状把握とともに、アフターコロナを見据えた支援モデルの構築に挑戦しています。助成期間は終了しましたが、科学研究費助成事業 基盤研究（B）

「地域福祉専門職による過疎地域支援のための診断指標の開発－関係性の分析－」研究代表：大井智香子（平成27～30年度）の成果を取りまとめ令和6年1月に『人口減少時代の生活支援論』（ミネルヴァ書房）を出版しました。

最近では自治体や非営利組織、大学などの研究機関によるファンドレイジングについて研究と実践に取り組んでいます。

社会活動（学外委員等）

日本地域福祉学会 東海北陸部会地方委員（平成15年6月～現在に至る）／三重県社会福祉協議会 地域福祉活動ステップアップ支援事業 審査委員（平成25年1月～現在に至る）／三重県社会福祉審議会高齢者専門分科会委員（令和2年7月～現在に至る）／みえ福祉第三者評価基準等委員会委員（令和3年4月～現在に至る）／三重県共同基金伊勢市共同基金委員会運営委員（平成30年9月～現在に至る）／伊勢市成年後見センター協議会委員（令和元年7月～現在に至る）／鳥羽市第3次地域福祉計画・鳥羽市第3期活動計画推進委員 委員長（令和2年4月～現在に至る）／紀宝町第3次地域福祉計画・活動計画推進委員会 委員長（令和4年7月～現在に至る）／伊賀市第4次地域福祉計画推進委員会 委員長（令和3年8月～現在に至る）／伊賀市第4次地域福祉活動計画推進委員（令和3年8月～現在に至る）／名古屋市西区社会福祉協議会 第5次地域福祉活動計画策定委員（令和5年5月～現在に至る）／三重県地域包括ケアシステムアドバイザー（令和5年5月～現在に至る）ほか多数

講演活動実績

三重県介護支援専門員資質向上研修「地域援助技術」（平成24年度以降～毎年担当 現在に至る）／三重県社協 地域における支え合い活動セミナー活動発表会ファシリテーター（平成29年度以降～毎年3月）／地域福祉学会 地域福祉実践研究フォーラム プレ企画ファシリテーター／実践研究発表コメンテーター（平成31年12月）／三重県高等学校文化連盟ボランティア部門 2019年度ボランティア体験発表会審査員（令和2年2月）／三重県社協 ボランティアコーディネーション研修 企画アドバイザー・講師・演習指導（入門編・実践編）（令和3年度、令和4年度）／令和3年度 西尾張ブロックボランティアフェスティバル 基調講演・シンポジウムコーディネーター（令和3年12月）／令和4年度 伊賀市社会福祉法人連絡会市民向けセミナー 助言者（令和5年2月）／三重県・三重県警察 令和5年度安全・安心まちづくりフォーラム講演（令和5年8月）／生活協同組合コープみえ・伊賀市社協・名張市社協 くらしあんしん講座「食ること・生きること・つながること」（令和5年11月）ほか多数

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 准教授		
氏 名	藤井 恭子		
専 門 分 野	社会調査法／教育社会学／地域社会学		
所 属 学 会	現代日本社会学科		
キーワード	数理・統計	地域づくり	産業・観光

連携分野（地域社会活動・産官学連携・文化振興活動等の具体的な内容）

地域社会活動	アンケート調査やインタビュー調査など社会調査の技法を用いた、地域や教育に関わる共同研究
--------	---

連携事業等へのアピールポイント

社会調査関連で連携したり、また地域社会研究の「宇治山田の和紅茶」や「常若のしずく」などを活用して別の商品を開発したり、新たな商品を開発する際に連携できればと考えています。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

現在、主に日本の高校生や大学生といった若者を対象としたソーシャルビジネスや地域活動に関する研究を行っています。これまで大学生たちと伊勢茶や日本茶の普及を目指した「宇治山田の和紅茶」や、日本酒の普及を目指した「常若のしずく」、地産地消やSDGsを目指したウツボあられの「うつぽ美人」など、さまざまな商品企画・開発、それにとともにPR活動や販売をおこなってきました。さらにこれらの取り組みでは、地元の祭りへの参加など、地域に関わる様々な活動も行っています。これらの事例を通じて、日本の若者によるソーシャルビジネスや地域活動の成果や課題についても検証しており、一部の研究成果は、学会や講演会での発表や論文になっています。今後はその理論化を目指しています。

社会活動（学外委員等）

伊勢市行政改革推進副委員長（平成26年4月～現在に至る）

講演活動実績

第4回沖縄キャリア教育シンポジウムで全体の講評（令和2年2月）／第3回沖縄県高校生等 SBP 交流フェアで全体の講評（令和2年2月）／夢ナビ講義「大学生が取り組む教育実践－度会カフェリョクプロジェクトを事例として－」（令和3年4月）／三重県生涯学習センター×皇學館大学×度会町連携協定事業「自然と再エネが共生するまち度会町」（令和4年6月）／令和5年度 生涯学習事業 皇學館大学月例文化講座「第2回 地域で輝く若者たち」（令和5年7月）／みえアカデミックセミナー2023第15回「地域で育つ 地域が育つ－主体的に活動する学生事例から－」（令和5年8月）／令和5年度 皇學館高等学校 総合的な探究の時間 キャリアプログラム「商品開発への挑戦－課題解決型の人材を目指して－」（令和6年1月）

所 属	現代日本社会学部 現代日本社会学科 准教授		
氏 名	村上 政俊		
専 門 分 野	国際政治、日本の外交安全保障、米中関係、米国のアジア政策		
所 属 学 会	日本国際政治学会、国際安全保障学会		
キーワード	国際理解・外国語	歴史・文化	その他

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

国際戦略	企業や自治体が海外戦略を立案する際に、その基盤となる国際情勢についての認識理解をともに深める
------	--

連携事業等へのアピールポイント

講演の聴衆の幅広さ（講演活動実績を参照）



主な研究課題と今後の展開

2024 年 11 月の米国大統領選挙は、共和党あるいは民主党いずれが勝利したとしても、日本および世界に大きな影響を与えることとなる。一方で近年の中国は、特に習近平指導部発足以降、極めて強硬な対外政策を展開し、米中関係は覇権を巡る争いと化している。バイデン政権はの対中政策及び米中関係がいかに展開するか。地政学上のホットスポットである台湾をめぐる緊張が高まっている。我が国の外交政策立案において重要となるこれら課題について、研究を進める予定だ。

社会活動（学外委員等）

現在

中曽根康弘世界平和研究所客員研究員
21世紀日本フォーラム副代表幹事
日本国際連合協会関西本部理事 ほか

講演活動実績

（海外講演）

インド太平洋戦略における日米台協力（令和2年3月、台湾外交部外交学院）

（国内講演）

日本産業衛生学会、社会教育主事講習（大阪教育大学）、西宮商工会議所青年部、りそなアジア・オセアニア財団、大阪日台交流協会、東京大学法学部学習相談室、灘校土曜講座、大淀三師会、21世紀日本アジア協会、東大阪中央ロータリークラブ、京都西南ロータリークラブ、柑芦会（和歌山大学経済学部同窓会）、国際京都学協会、日本学協会、INTELLECTUAL GYM、水戸史学会大会、G20 諸宗教フォーラム 2019、金融機関（りそな銀行、SMBC 日興証券、三井住友信託銀行、東京海上アセットマネジメント、三菱 UFJ 国際投信、野村アセットマネジメント、フィデリティ投信、日興アセットマネジメント、アセットマネジメント One 等） ほか

（テレビ出演）

そこまで言って委員会 NP（読売テレビ）、ゆうがたサテライト（テレビ愛知）、報道ライブ 21 INsideOUT（BS11）、けやきヒルズ（AbemaTV）、ウェークアップ！ぷらす（読売テレビ） ほか

研究開発推進センター

所 属	研究開発推進センター 教授		
氏 名	荊木 美行		
専 門 分 野	日本古代史・法制史		
所 属 学 会	木簡学会・風土記研究会・日本書紀研究会		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	文学・言語学

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

自治体史の編纂	原始・古代の分野で、各地の自治体史の編纂・執筆に協力
文化財の調査	各地の遺跡・遺物、特に古代のものについては調査に協力
市民歴史講座等の開講	自治体に応じた各地の古代史について、講演会を中心とする歴史講座の開講

連携事業等へのアピールポイント

歴史研究を通じて地域に貢献することを心掛けている。上記のような形で地域の方々に、自分たちの住む地域の歴史と伝統を再認識していただけるよう努める。



主な研究課題と今後の展開

- ・ 題目 『古事記』『日本書紀』風土記を中心とした古代史研究
- ・ 概要 日本最古の歴史書である『古事記』『日本書紀』を通じて、古代の日本やヤマト政権の成立過程について考える。
- ・ 到達目標 風土記の注釈作業を完成させ、出版する。それによって、一般のかたがたに古典の重要性や面白さを伝えていく。

社会活動（学外委員等）

- ・ 日本書紀研究会編集委員
- ・ 伊勢市文化会議所理事

講演活動実績

『日本書紀』の世界（熱田神宮、令和2年）／『日本書紀』に学ぶ－撰上1300年に寄せて－（みえミュージアムセミナー、令和2年）／ヤマト政権と豊国－景行天皇の西征伝承をめぐって－（歴史をたのしもう会、令和2年）／消えた日本書紀と残った日本書紀－系図一巻と別巻の謎を探る－（豊中歴史同好会、令和3年）

所 属	研究開発推進センター 准教授		
氏 名	佐野 真人		
専 門 分 野	日本古代史／神道史		
所 属 学 会	神道史學會／日本歴史学会／史学会／続日本紀研究会／藝林会／神道宗教学会 など		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

日本古代史	朝廷儀礼・祭祀の歴史
神道史	皇室の歴史・祭祀、神宮の歴史・祭祀、『延暦儀式帳』

連携事業等へのアピールポイント

史料に基づいた日本の古代史の研究をしています。特に伊勢の神宮の最重要古典である『延暦儀式帳』の読解をすすめています。また、朝廷の儀礼・祭祀について、中国大陆からの影響と日本国内での変遷についても研究課題としています。普段の生活であまり知ることのできない、それでいて日本文化の根本とも言うべき皇室や伊勢の神宮の祭祀や行事についての情報提供を考えています。

主な研究課題と今後の展開

①「日本古代における朝廷祭祀・儀礼の研究」

平安時代中期の『西宮記』・『北山抄』・『江家次第』に記載されている年中行事のち恒例化された祭祀・儀礼を、『貞観儀式』や『内裏式』や当時の貴族の日記を比較し、その祭祀・儀礼の日本における成立論と変遷について考察を加える。また、皇位継承儀礼（譲位・践祚・即位・大嘗祭）の諸資料を調査し、歴史的変遷について検討を加える。

②「延暦儀式帳の研究」

伊勢の神宮の最重要古典である『延暦儀式帳』を解説する。『延暦儀式帳』の注釈書としては、近世後期中川経雅の『大神宮儀式解』と橋村正兌の『外宮儀式解』のみであり、それ以降今日までの研究成果を収集・整理する。そして令和期の学問水準における『延暦儀式帳』の注釈書を編纂し、これまでの神宮における学問の伝統と、その研究成果を継承した伊勢神宮研究に関する基本資料を学界に提供する。

社会活動（学外委員等）

神道史學會委員（平成25年6月～現在に至る）
八坂神社文教委員（平成30年7月～現在に至る）

講演活動実績

- ・よんぶんセミナー～皇學館大学公開講座～「鳥出神社・鵜森神社－四日市の式内社と古代の神祇祭祀－」（於：四日市市立三浜文化会館、令和6年2月10日）
- ・四日市熟年大学講義「令和御大礼の成果と課題」（於：四日市市立三浜文化会館、令和2年11月12日）
- ・NIPPONの原点を学ぶ三重の魅力発信セミナー「皇位継承と伊勢神宮」（於：三重テラス、令和元年10月11日）

所 属	研究開発推進センター 准教授		
氏 名	塩川 哲朗		
専 門 分 野	古代神祇史／神道史／学説史・思想史		
所 属 学 会	神道宗教学会／神道史学会／史学会		
キーワード	民俗学・神道	歴史・文化	文学・言語学

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

天皇、伊勢神宮	天皇と伊勢神宮の歴史と祭り
神社、神道、祭り	神社・神道の歴史、祭りの歴史と意義
古典	古事記、日本書紀、祝詞（延喜式）などの古典の読解とその世界観

連携事業等へのアピールポイント

古代の天皇、古代国家、伊勢神宮による祭りとその歴史が主な研究テーマですが、西田長男や折口信夫など大嘗祭や神道祭祀、古典に関わる学説史・思想史も研究しています。近年、皇室や神社・神道、祭りや伝統への関心が高まっています。それは外国人の日本への関心だけでなく、日本人自身が自分たちの歴史や文化を再認識することの必要性が高まったからでもあります。グローバル化の促進と批判が高まったことで、普遍性だけでなく地域性が見直され、日本の伝統文化や祭りなどが尊重されるようになりました。しかし、神道や祭祀には一部の偏見に基づく誤解が拡散された過去があり、正確な知識に基づいた理解が必要とされていることも事実です。神道や祭りは列島に住む人々が自然と共生し、その日々の生活の中から育まれた文化です。その信仰・思想の様態や歴史を振り返ることは、人間にとって大事なこと・必要なこと、未来に残していくべきものとは何かを探る良いきっかけとなるでしょう。

主な研究課題と今後の展開

【題目】①宮中祭祀の研究、②伊勢神宮祭祀の研究、③災害・祟りと祭祀、④古代出雲の祭祀

【概要】①天皇が即位後初めて行う一代一度の祭りである大嘗祭を始めとする宮中祭祀について研究しています。現在も天皇が皇居内で行っている様々な祭りの歴史的な形成過程や祭りの意義について、客観的な立場から考察しています。②天皇の祖とされる天照大神を祭る伊勢神宮の歴史と祭りについて研究しています。伊勢神宮の祭りには地域の人々と自然環境の力が大きく働いていたことなどが明らかとなっています。平安時代後期から中世にかけて神宮の神職が書いた神道書の成立と意義も課題としています。③古代より日本列島において頻発した自然災害に対し、古代の人々がどのように考え対処したのか、特に宗教（神祭り）の側面から研究しています。古代では災害の発生は神の祟りと捉えられ、丁重な祭祀の執行が求められていました。④出雲大社が鎮座する出雲地方の古代における祭りの歴史について研究しています。研究全体の目的は、日本列島における神への信仰とその営みを歴史的に分析することで、日本人の心の奥底に連綿と続いてきた特有の性質はあるのか、あるならばそれは一体どういったものか、について明らかにすることです。

社会活動（学外委員等）

神道宗教学会 研究幹事（平成 27 年 5 月～令和 2 年 3 月）
 島根県古代文化センター 客員研究員（令和 2 年 6 月～令和 6 年 3 月）
 神道史学会 委員（令和 3 年 6 月～現在に至る）
 國學院大學 研究開発推進機構 共同研究員（令和 5 年 4 月～現在に至る）

講演活動実績

飯能市文化財講座「皇位継承に関する行事とその意味―譲位・即位儀を中心に―」（令和元年 10 月 19 日）／鶴岡八幡宮
 鎌倉市氏子総代会 70 周年記念講演企画展「即位・大嘗祭―天皇の御即位と古代より続く神へのおもてなし―」（令和元年 10 月 25 日）／國學院大學博物館企画展「大嘗祭」ミュージアムトーク「衣食住と大嘗祭」（令和元年 11 月 16 日）／神田明神特別企画講演「伊勢神宮の創祀と祭り」（令和 5 年 7 月 15 日）／島根県立古代出雲歴史博物館企画展「伊勢と出雲」関連講座「古代における伊勢と出雲の祭り」（令和 5 年 10 月 22 日）齋宮歴史博物館令和 5 年度 企画展「海の祈り」記念講演会「伊勢神宮と海の恵み」（令和 5 年 11 月 11 日）

所 属	研究開発推進センター 特命准教授		
氏 名	浦野 綾子		
専 門 分 野	近世文学		
所 属 学 会	日本近世文学会／東海近世文学会／鈴屋学会／中世文学会／神道史學會／日本図書館文化史研究会		
キーワード	文学・言語学	歴史・文化	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

日本近世文学	伊勢や松阪を主とした国学者に関する研究
文化振興活動	文化財の調査・保存活動、博物館教育普及活動
歴史・伝統文化活動	日本近世文学・佐川記念神道博物館の展示に関する講演

連携事業等へのアピールポイント

国学者である長野義言について研究しています。義言は国学をどうとらえていたのか、どのように伝えたのか、国学者としての義言はどんな人物だったのかといったことを、現存する資料を読み解きながら調査しています。こうしたことから、伊勢や松阪近辺の国学者についても関心を持っています。また、佐川記念神道博物館に学芸員として勤務しており、地域の歴史や文化財の保存・活用についてや、地域や子どもたちの博物館教育普及活動などについて、お役に立てればと思っています。

主な研究課題と今後の展開

【題目】「長野義言の研究」

【概要】近世期の人々が本居宣長の教えをどのように受容し伝播していったかを明らかにするため、長野義言の研究、および、国学者とその周辺の国学ネットワークについて研究する。

【背景・目標】国学者・本居宣長は国学の大成者と言われています。「宣長学」と呼ばれる本居宣長の学問は幅広く、現在では、様々な分野に細分化されています。「宣長学」とはいったい何なのか、ということを、宣長以降の国学者たちが受容した「宣長学」の内容から解明していきたいと考えています。

社会活動（学外委員等）

神道史學會委員（令和元年～現在に至る）／三重県博物館協会運営委員（令和4・5年度）

講演活動実績

神道博物館教養講座「足代弘訓と橋村正克」（令和5年5月）

所 属	研究開発推進センター 助教		
氏 名	小林 郁		
専 門 分 野	日本中世史／神道史		
所 属 学 会	中世史研究会／神道史學會／日本古文書学会／神道宗教學會／日本道教学会		
キーワード	歴史・文化	民俗学・神道	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

歴史・伝統文化	日本中世史・伊勢神宮の歴史・佐川記念神道博物館の展示に関する講演
文化振興活動	地域施設・教育機関等への出前授業（博物館関連）

連携事業等へのアピールポイント

伊勢御師に関わる史料を読み解き、神宮の歴史や伊勢信仰について研究しています。日本中世社会において、伊勢信仰はどのように浸透していったのか、その立役者たる伊勢御師はどのような過程で発生し、社会にどのような影響を及ぼしたのか、等について分析しています。最近近代史料に触れる機会が多いため、御師制度廃止後の旧御師家の動向についても興味をもっています。また、現在佐川記念神道博物館に勤務中であり、文化財 IPM コーディネータ・準デジタルアーキビストの資格も有しておりますので、地域の歴史や文化財の保護・活用について、様々な視点からお話しできればと思っています。

主な研究課題と今後の展開

<研究課題>

「伊勢御師と伊勢信仰に関する研究」

<今後の展開>

現在整理・調査中の「伊勢御師橋村家関係資料」等を素材に、中世～近世における伊勢御師の活動や伊勢御師の「家」に関すること、近代以降の旧御師家に関する研究を行う。また、中世の「檀那帳」を収集し、そこから読み取れる情報から、中世における伊勢信仰・伊勢御師の発生過程等についての研究を行う。

社会活動（学外委員等）

特定非営利活動法人旧御師丸岡宗大夫邸保存再生会議客員研究員（平成 27 年～現在に至る）／神道史學會委員（平成 29 年～現在に至る）／地方史研究協議会第 72 回（三重）大会実行委員（令和 4 年～令和 5 年）／伊勢市郷土資料館基本計画策定委員会委員（令和 5 年～現在に至る）

講演活動実績

学習支援部コミュニティースクール歴史学習支援「あつ、歴史発見！」「伊勢街道の歴史」（学校運営協議会 松阪市立米ノ庄小学校学校支援地域本部 学習支援部歴史学習支援、令和元年～現在）／みえを知る旅Ⅲ「伊勢古市の妓楼と歌舞伎～「千束屋」女主人・山田里登の商才～」(湯元榊原館、令和 5 年 7 月)／令和 5 年度伊勢郷土会講演会「伊勢御師の家伝資料～橋村家を例に～」(伊勢郷土会、令和 5 年 10 月)／暮らっしゅく日本五十鈴塾「家伝資料にみる伊勢御師～橋村一族の歴史と実態～」(公益財団法人伊勢文化会議所、令和 5 年 10 月)／みえミュージアムセミナー 2023 講演会「初公開！伊勢御師の家伝資料～橋村一族の軌跡～」(三重県生涯学習センター、令和 5 年 11 月) 等

教育開発センター

所 属	教育開発センター 特命教授		
氏 名	中村 哲夫		
専 門 分 野	体育・スポーツ史		
所 属 学 会	日本体育学会 / スポーツ史学会 / 東北アジア体育・スポーツ史学会		
キーワード	芸術・スポーツ		

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

体育やスポーツの 歴史分野	オリンピックやスポーツの発展の過程を歴史的に考える。
------------------	----------------------------

連携事業等へのアピールポイント

オリンピックやワールドカップ等のトップレベルのスポーツ、また健康や充実した生活のために一般の人たちが行う地域のスポーツや生涯スポーツ等、現代の社会の中でスポーツのもつ意味や役割が大きくなってきています。スポーツを考慮に入れないで、現代の世界や社会を語ることはできません。スポーツとは何か、どのように発展して社会的な広がりを持つようになったのか、私たちとスポーツとの関係を考えていきたいと思います。

主な研究課題と今後の展開

題目：第12回オリンピック東京大会の中止に関する研究

概要：昭和15年に東京で開催予定の第12回オリンピック大会は、戦争のために中止になりました。この大会の招致・準備・返上の過程を、国内外の政治的・社会的・競技的な背景の中から考察していきます。

特に、オリンピック大会の主催組織である国際オリンピック委員会（IOC）の動向に注目して、日本の組織委員会とIOCの関係から、招致・準備・返上の経緯を見ていきます。

社会活動（学外委員等）

「体育学研究」編集委員（平成28年～令和3年）

講演活動実績

亀山市中央公民館講座「幻となった第12回オリンピック東京大会」（令和3年6月12日）

明治聖徳記念学会第69回研究例会「幻の東京オリンピック（1940年）における主競技場問題」（令和5年3月25日）

箱根駅伝100回記念シンポジウムin京都「駅伝のルーツ：東京巽都記念東海道五十三次駅伝徒歩競走」（令和5年4月30日）

所 属	教育開発センター 准教授		
氏 名	池山 敦		
専 門 分 野	コミュニティ政策、ファシリテーション、ワークショップ		
所 属 学 会	コミュニティ政策学会		
キーワード	地域づくり	社会教育・生涯学習	体験活動・ワークショップ

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

まちづくり	人口減少、高齢化などの地域課題を調査、報告する
社会教育	わかりやすく地域課題を伝える住民ワークショップの開催

連携事業等へのアピールポイント

複数年に渡り、伊勢志摩地域の自治体より受託研究を受託しています。地域課題をなるべくわかりやすく地域住民の方にお伝えし、解決策をともに考えるワークショップの実施を行っています。

研究シーズ集



主な研究課題と今後の展開

- ・東日本大震災の津波被災地域における自治会の再建（宮城県山元町）
津波被災自治会において住民意識調査を実施、現地での報告会を行う。
- ・地域課題を楽しく学べる社会教育プログラムの構築（三重県玉城町）
アプリによる地域課題の学習できるプログラムの構築

社会活動（学外委員等）

- ・三重県社会教育委員 座長
- ・玉城町総合計画審議会長
- ・伊勢市公益活動促進委員長

講演活動実績

- ・名張ゆめづくり協働塾～地域づくり活動、その先へ～パネルディスカッションコーディネーター
- ・玉城町生涯現役シンポジウム、パネルディスカッションコーディネーター

所 属	教育開発センター 准教授		
氏 名	濱畑 静香		
専 門 分 野	日本語学／日本語教育学		
所 属 学 会	日本語教育学会／社会言語科学会／日本語プロフィシエンシー研究学会／ACTFL／韓国 OPI 研究会／看護と介護の日本語教育研究会		
キーワード	国際理解・外国語	文学・言語学	

連携分野（研究活動等の応用可能な分野と用途）

文化振興活動	日本語教育
地域社会活動	多文化共生

連携事業等へのアピールポイント

外国人に対する日本語教育や、日本語に関する研究をしています。地域の日本語学習者の方や、日本語学習者に日本語を教えたいと思っている方のお手伝いが出来れば嬉しいです。

主な研究課題と今後の展開

- ・日本語学習者の口頭運用能力測定に関する研究
- ・EPA（経済連携協定）による外国人看護師候補者の日本語指導に関する研究
三重県、医療法人伊勢田中病院及び本学はEPAに基づく外国人看護師候補者への支援に関する連携協定を締結していることから、日本語支援を行っております。外国人看護師候補者の日本語学習面における課題を見つけ、効果的な学習内容や方法を研究しているところです。
- ・災害時の外国人に対する日本語支援
令和元年度より、災害時における外国人住民とのコミュニケーションについて、主にやさしい日本語を使ったコミュニケーションの在り方についてお話しさせていただく機会をいただいております。私自身も過去に災害時語学サポーター養成研修に何度か参加させていただきました。災害時に外国人の方々のサポートができるよう努めているところです。

社会活動（学外委員等）

特になし

講演活動実績

- ・「災害時における外国人住民とのコミュニケーション」（避難所運営研修会、伊勢市、令和6年2月3日）
- ・「災害時における外国人住民とのコミュニケーションを考える」（避難所運営研修会、伊勢市、令和4年10月29日、12月11日）
- ・「やさしい日本語について」（市町職員・相談窓口対応職員向け研修会、三重県、令和3年6月17日、7月28日、8月25日、9月29日、10月27日）
- ・伊勢市国際交流オンラインセミナー（司会・インタビュアー）（伊勢市、令和3年3月7日）
- ・「災害時における外国人住民とのコミュニケーションを考える」（避難所運営研修会～外国人避難者への対応を考える～、伊勢市、令和2年11月22日）
- ・「災害時における外国人住民とのコミュニケーションを考える」（避難所運営研修会～外国人避難者への対応について考える～、伊勢市、令和2年2月8日）
- ・「いのちをまもる日本語講座」（外国人住民対象防災説明会、伊勢市、令和元年10月26日）

キーワード一覧

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 防災・減災 | 18. 幼児教育・保育・子育て支援 |
| 2. 健康づくり・食育 | 19. ダイバーシティ |
| 3. 福祉・高齢者・人口減少 | 20. 地域づくり |
| 4. 特別支援教育 | 21. 産業・観光 |
| 5. 環境・地理 | 22. 施策立案 |
| 6. 国際理解・外国語 | 23. その他 |
| 7. 道德教育 | |
| 8. 学校教育 | |
| 9. 数理・統計 | |
| 10. 社会教育・生涯学習 | |
| 11. 体験活動・ワークショップ | |
| 12. ICT・メディアリテラシー | |
| 13. 心理学 | |
| 14. 芸術・スポーツ | |
| 15. 歴史・文化 | |
| 16. 民俗学・神道 | |
| 17. 文学・言語学 | |

索引

1. 防災・減災

齋藤 平	13
中野 一茂	72

2. 健康づくり・食育

駒田 聡子	44
小川真由子	55
片山 靖富	56
佐藤 武尊	57

3. 福祉・高齢者・人口減少

千邑 淳子	18
大杉 成喜	41
鵜沼 憲晴	66
関根 薫	68
榎本 悠孝	76
大井智香子	77

4. 特別支援教育

大杉 成喜	41
山本 智子	63

5. 環境・地理

澤 友美	58
萩原 浩司	62

6. 国際理解・外国語

張 磊	32
豊住 誠	33
川村 一代	35
玉田 貴裕	38
中野 一茂	72
瓜田 理子	75
村上 政俊	79
濱畑 静香	89

7. 道德教育

高野 裕基	9
渡邊 毅	51
新田 均	73

8. 学校教育

服部 直美	26
長谷川 怜	30
張 磊	32
豊住 誠	33
川村 一代	35
中山 真	39
大杉 成喜	41
加藤 純一	42
叶 俊文	43
勢力 稔	45
中條 敦仁	46
中松 豊	47
渡邊 賢二	50
渡邊 毅	51
市田 敏之	52
井上 兼一	53
上野 祐一	54
小川真由子	55
片山 靖富	56
澤 友美	58
高橋摩衣子	59
野々垣明子	61
萩原 浩司	62
山本 智子	63

9. 数理・統計

中松 豊	47
村瀬 雅俊	48
上野 祐一	54
澤 友美	58
藤井 恭子	78

索引

10. 社会教育・生涯学習

岡野 裕行	16
千邑 淳子	18
服部 直美	26
中條 敦仁	46
村瀬 雅俊	48
野々垣明子	61
池山 敦	88

11. 体験活動・ワークショップ

大井智香子	77
池山 敦	88

12. ICT・メディアリテラシー

張 磊	32
勢力 稔	45
中條 敦仁	46

13. 心理学

芳賀 康朗	34
栗野理恵子	36
高沢 佳司	37
中山 真	39
叶 俊文	43
吉田 直樹	49
渡邊 賢二	50

14. 芸術・スポーツ

上小倉一志	12
平石 岳	19
加藤 純一	42
叶 俊文	43
片山 靖富	56
佐藤 武尊	57
高橋摩衣子	59
岩崎 正彌	74

瓜田 理子	75
中村 哲夫	87

15. 歴史・文化

加茂 正典	5
中山 郁	6
橋本 雅之	7
松本 丘	8
高野 裕基	9
田中 康二	14
松下 道信	15
木村 尚志	17
遠藤 慶太	22
岡野 友彦	23
多田 實道	24
谷口 裕信	25
堀内 淳一	27
松浦 光修	28
谷戸 佑紀	29
長谷川 怜	30
井上 兼一	53
新田 均	73
岩崎 正彌	74
村上 政俊	79
荊木 美行	81
佐野 真人	82
塩川 哲朗	83
浦野 綾子	84
小林 郁	85

16. 民俗学・神道

板井 正斉	4
加茂 正典	5
中山 郁	6
橋本 雅之	7
松本 丘	8
高野 裕基	9

索引

松下 道信	15
木村 尚志	17
岡野 友彦	23
多田 實道	24
松浦 光修	28
谷戸 佑紀	29
瓜田 理子	75
荊木 美行	81
佐野 真人	82
塩川 哲朗	83
小林 郁	85

17. 文学・言語学

橋本 雅之	7
大島 信生	11
齋藤 平	13
田中 康二	14
岡野 裕行	16
木村 尚志	17
平石 岳	19
吉井 祥	20
服部 直美	26
玉田 貴裕	38
荊木 美行	81
塩川 哲朗	83
浦野 綾子	84
濱畑 静香	89

18 幼児教育・保育・子育て支援

中山 真	39
駒田 聡子	44
吉田 直樹	49
小川真由子	55
佐藤 武尊	57
高橋摩衣子	59
土谷 長子	60

山本 智子	63
吉田 明弘	64

19. 地域づくり

板井 正斉	4
齋藤 平	13
岡野 裕行	16
千邑 淳子	18
渡邊 毅	51
笠原 正嗣	67
千田 良仁	69
筒井 琢磨	70
大井智香子	77
藤井 恭子	78
池山 敦	88

20. 産業・観光

長谷川 怜	30
笠原 正嗣	67
千田 良仁	69
岩崎 正彌	74
藤井 恭子	78

21. 施策立案

千田 良仁	69
新田 均	73
榎本 悠孝	76

22. その他

中松 豊	47
村瀬 雅俊	48
富永 健	71
中野 一茂	72
村上 政俊	79

社会連携事例集

発行日 令和6年5月

発行 皇學館大学地域連携推進室

〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704

TEL : 0596-22-8635 FAX : 0596-27-1704

<https://www.kogakkan-u.ac.jp>